

第4章 中間評価

1 目標値に対する評価

(1) 目標値に対する達成度の評価

○ 細目標項目（76項目）を評価した結果、全体目標では、達成（◎）25.0%、未達成（△）0.0%、基準値に満たず未達成（×）75.0%でした。社会的目標では、達成（◎）40.3%、未達成（△）29.2%、基準値に満たず未達成（×）30.6%でした。

区分	目標項目数	細目標項目数		細目標項目の評価結果（76項目の内訳）		
		判定可能	判定不能 （直近実績 値が把握で きないため）	◎：達成	△：未達成	×：基準値 に満たず未 達成
全体目標	2	4	0	1 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (75.0%)
社会的目標	51	72	3	29 (40.3%)	21 (29.2%)	22 (30.6%)
計	53	76	3	30	21	25
		79		(39.5%)	(27.6%)	(32.9%)

○ 社会的目標の判定可能な細目標項目（72項目）について、分野別の達成度をみると、達成（◎）割合が最も高い分野は、「休養・こころの健康づくり」であり、次いで「歯・口腔の健康」でした。未達成（△）割合が最も高い分野は、「高齢者の健康」であり、次いで「健康を支え、守るための社会環境の整備」「喫煙」でした。基準値に満たず未達成（×）割合が最も高い分野は、「身体活動・運動」であり、次いで「飲酒」でした。

※少数点第1位を四捨五入

目標分野（細目標項目数）		◎：達成	△：未達成	×：基準値 に満たず 未達成
全体目標(4)		25%	0%	75%
社会的目標 (72)	主な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底(22)	41%	32%	27%
	こころの健康(2)	50%	0%	50%
	次世代の健康(5)	40%	40%	20%
	高齢者の健康(3)	33%	67%	0%
	健康を支え、守るための社会環境の整備(2)	50%	50%	0%
	栄養・食生活(9)	33%	33%	33%
	身体活動・運動(8)	13%	13%	75%
	休養・こころの健康づくり(2)	100%	0%	0%
	飲酒(5)	40%	0%	60%
	喫煙(6)	33%	50%	17%
歯・口腔の健康(8)	63%	25%	13%	

(2) 目標値に対する達成度評価一覧

全体目標

分野	目標項目	基準値 (基準年)	直近実績値 (年)	達成予測値 (年)	細目標 項目別 評価	各分野別 目標項目 達成状況	最終目標値 (年)	出典元 (基準 値)	出典元 (直近実 績値)
健康寿命の延伸と健康格差の縮小	1 平均寿命の延伸の増加を上回る健康寿命の延伸をはかる	(健康寿命) 男 70.90 年 女 74.36 年 (H22) (平均寿命) 男 80.36 年 女 86.74 年 (H22)	(健康寿命) 男 72.30 年 女 74.63 年 (H28) (平均寿命) 男 81.64 年 女 87.46 年 (H28)	(延伸)	男 ◎ 女 ×	C	延伸 (H34)	平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金による「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」	同左
	2 県内の各地域の健康格差の縮小をはかる	男 0.49 年 女 0.51 年 (H22)	男 0.74 年 女 0.60 年 (H26)	(縮小)	× ×		縮小 (H34)	県健康長寿・健康格差調査等分析事業※地域政策圏単位の 65 歳からの平均自立期間(最長と最短の差)	同左

社会的目標

分野	目標項目	基準値 (基準年)	直近実績値 (年)	達成予測値 (年)	細目標 項目別 評価	各分野別 目標項目 達成状況	最終目標値 (年)	出典元 (基準 値)	出典元 (直近実 績値)
主な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	3 がんの 75 歳未満の年齢調整死亡率の減少(人口 10 万対)	86.3 (H20)	75.4 (H28)	70.9 (H28)	△	C	69.0 (平成 20 年から 20%減) (H29)	人口動態統計(がん研究センターがん対策情報センター)	同左
	4 がん検診受診率の向上	胃がん 31.7% 大腸がん 24.1% 肺がん 23.3% 乳がん 38.9% 子宮がん 37.9% (子宮頸がん) (H22)	41.8% 42.2% 45.9% 45.7% 44.6% (H28)	38.8% 37.7% 37.6% 48.4% 48.3% (H28)	◎ ◎ ◎ △ △		40%以上 40%以上 40%以上 50%以上 50%以上 (H29)	国民生活基礎調査	同左
	5 脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少(人口 10 万対)	男 45.6 女 26.0 (H22)	男 36.6 女 19.0 (H27)	男 42.5 女 25.1 (H27)	◎ ◎		男 38.0 女 23.8 (H34)	人口動態統計特殊統計	同左
	虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少(人口 10 万対)	男 33.9 女 12.7 (H22)	男 27.3 女 8.7 (H27)	男 31.4 女 12.3 (H27)	◎ ◎		男 27.9 女 11.6 (H34)	”	同左

分野	目標項目	基準値 (基準年)	直近実績値 (年)	達成予測値 (年)	細目標 項目別 評価	各分野別 目標項目 達成状況	最終目標値 (年)	出典元 (基準 値)	出典元 (直近実 績値)
主な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	6 高血圧の改善(平均収縮期血圧を下げる)(40~89歳)	男 136mmHg 女 128mmHg (H21~23)	男 138mmHg 女 132mmHg (H25~27)	男 135mmHg 女 127mmHg (H26)	× ×	C	男 132mmHg 女 124mmHg (H34)	県民健康・栄養調査	同左
	7 脂質異常症の減少(40~74歳)	男 12.4% 女 13.4% (H22)	男 13.2% 女 13.9% (H26)	男 11.3% 女 12.3% (H26)	× ×		男 9% 女 10% (H34)	厚生労働省保険局医療費適性化推進室提供データ	NDB(レセプト情報・特定健診データ)オープンデータ
	8 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少(HbA1cがJDS値8.0%以上又はNGSP値8.4%以上1.1%の者の割合の減少)(40~74歳)	HbA1cがJDS値8.0%以上又はNGSP値8.4%以上1.1%(H22)	0.9% (H26)	1.1% (H26)	◎	C	1.0% (H34)	"	"
	9 糖尿病有病者の増加の抑制(40~74歳)	21万人 (H22)	23万人 (H26)	21万人 (H26)	×		22万人 (H34)	"	"
	10 糖尿病治療継続者の割合の増加(20歳以上)	58.3% (H21~23)	68.7% (H25~27)	60.5% (H26)	◎		65% (H34)	県民健康・栄養調査	同左
	11 合併症(糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数)の減少	959人 (H22)	1,007人 (H27)	945人 (H27)	×		925人 (H34)	日本透析医学会(HPから)	同左
	12 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の認知度の向上	11.9% (H25)	13.2% (H27)	27.0% (H27)	△		80% (H34)	県民健康・栄養調査	同左
	13 特定健康診査の実施率の向上	40.3% (H22)	49.7% (H27)	61.5% (H27)	△		70%以上 (H29)	厚生労働省保険局医療費適性化推進室提供データ	特定健康診査・特定保健指導実施状況
	特定保健指導の実施率の向上	9.8% (H22)	12.2% (H27)	35.0% (H27)	△		45%以上 (H29)	"	"
	14 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	26.3% (H20)	25.6% (H27)	21.2% (H27)	△		平成20年度比25%以上減少 (H29)	"	"
こころの健康	15 自殺者数の減少	1,707人 (H17)	1,309人 (H28)	1,394人 (H28)	◎	B	平成17年から20%減少 (H29)	人口動態統計	同左
	16 気分障害(躁うつ病を含む)の患者数の減少	53,000人 (H20)	68,000人 (H26)	50,857人 (H26)	×		平成20年から10%減少(48,000人以下) (H34)	患者調査	同左

分野	目標項目	基準値 (基準年)	直近実績値 (年)	達成予測値 (年)	細目標 項目別 評価	各分野別 目標項目 達成状況	最終目標値 (年)	出典元 (基準 値)	出典元 (直近実 績値)
次世代の健康	17 朝食を欠食する小学5年生の割合の減少	4.0% (H24)	4.6% (H29)	(0%に近づける)	×	C	0%に近づける (H29)	教育局食生活に関する調査	同左
	18 子どもの週3回以上のスポーツ実施率の増加	45.8% (H22)	46.6% (H27)	50.0% (H27)	△		50%以上 (H27)	教育局神奈川県児童生徒体力・運動能力調査をスポーツ課で加工	同左
	子どもの週3回以上のスポーツ非実施率の減少	14.1% (H22)	12.0% (H27)	10% (H27)	△		10%以下 (H27)	”	同左
	19 全出生数中の低出生体重児の割合の減少	9.6% (H23)	9.5% (H28)	(減少)	◎		減少 (H34)	人口動態統計	同左
	20 小学5年生の肥満傾向の割合の減少	9.0% (H23)	7.8% (H29)	(減少)	◎		減少 (H34)	学校保健統計調査	同左
高齢者の健康	21 介護保険サービス利用者の増加の縮小	26万人 (H24)	32万人 (H28)	29万人 (H28)	△	C	37万人 (H37)	介護保険事業状況報告	同左
	22 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している20歳以上の県民の割合の増加	9.6% (H25)	13.8% (H27)	25.2% (H27)	△		80% (H34)	県民健康・栄養調査	同左
	23 低栄養傾向の高齢者の増加の抑制	16.9% (H22)	18.1% (H26)	18.6% (H26)	◎		22% (H34)	厚生労働省保険局医療費適性化推進室提供データ NDB(レセプト情報・特定健診データ等)オープンデータ	同左
社会環境の整備	24 健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている県民の割合の増加	2.7% (H23)	2.9% (H28)	12.9% (H28)	△	B	25% (H34)	社会生活基本調査	同左
	25 健康づくり事業等において、健康格差への対策を図っている市町村の増加	30市町村 (H25)	33市町村 (H28)	31市町村 (H28)	◎		33市町村 (H34)	県市町村調査	同左

分野	目標項目	基準値 (基準年)	直近実績値 (年)	達成予測値 (年)	細目標 項目別 評価	各分野別 目標項目 達成状況	最終目標値 (年)	出典元 (基準 値)	出典元 (直近実 績値)
栄養・ 食生活	26 適正体重を維持している者の割合の増加 20～60歳代男性の肥満者の減少	28.2% (H21～23)	27.0% (H25～27)	27.1% (H26)	◎	C	25% (H34)	県民健康・栄養調査	同左
	40～60歳代女性の肥満者の減少	17.2% (H21～23)	18.8% (H25～27)	16.5% (H26)	×		15% (H34)	〃	同左
	20歳代女性のやせの減少	21.2% (H21～23)	28.9% (H25～27)	20.8% (H26)	×		20% (H34)	〃	同左
	27 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加	61.9% (H25)	57% (H27)	65.9% (H27)	×		80% (H34)	〃	同左
	28 食塩1日摂取量が8g未満の者の割合の増加	28.1% (H21～23)	30.2% (H25～27)	37.4% (H26)	△		56% (H34)	〃	同左
	29 野菜1日摂取量が350g以上の者の割合の増加	26.8% (H21～23)	30.3% (H25～27)	32.9% (H26)	△		45% (H34)	〃	同左
	30 果物1日摂取量が100g未満の者の割合の減少	61.3% (H21～23)	58.4% (H25～27)	50.9% (H26)	△		30% (H34)	〃	同左
	31 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる共食の回数の増加	9回/週 (H24)	10回/週 (H29)	10回/週 (H29)	◎		週10回以上 (H34)	県民ニーズ調査	同左
32 栄養成分(4項目)を表示している特定給食施設の割合の増加	83.7% (H23)	91.1% (H28)	91.1% (H28)	◎	100% (H34)	県健康増進・栄養・食生活事業実績報告	同左		
身体活動・ 運動	33 成人の日常生活における歩数の増加 20～59歳	男 8,683 歩 女 8,079 歩 (H21～23)	男 8,248 歩 女 7,476 歩 (H25～27)	男 8,955 歩 女 8,386 歩 (H26)	×	C	男 9,500 歩 女 9,000 歩 (H34)	県民健康・栄養調査	同左
	60歳以上	男 7,028 歩 女 5,599 歩 (H21～23)	男 6,938 歩 女 6,253 歩 (H25～27)	男 7,352 歩 女 5,899 歩 (H26)	×		男 8,000 歩 女 6,500 歩 (H34)	〃	同左

分野	目標項目	基準値 (基準年)	直近実績値 (年)	達成予測値 (年)	細目標 項目別 評価	各分野別 目標項目 達成状況	最終目標値 (年)	出典元 (基準 値)	出典元 (直近実 績値)
	34 成人の運動習慣者(1回30分、週2回以上の運動を1年以上継続している者)の割合の増加20～59歳	男 28.9% 女 28.0% (H21～23)	男 22.5% 女 24.5% (H25～27)	男 32.3% 女 31.3% (H26)	× ×	C	男性 39% 女性 38% (H34)	〃	同左
	60歳以上	男 56.3% 女 40.2% (H21～23)	男 51.6% 女 42.1% (H25～27)	男 59.5% 女 43.5% (H26)	× △		男性 66% 女性 50% (H34)	〃	同左
休養 二 の 健康 づくり	35 目覚めた時に疲労感が残る者の割合の減少	男 23.9% 女 23.3% (H21～23)	男 18.3% 女 15.1% (H25～27)	男 22.6% 女 22.2% (H26)	◎ ◎	A	男 20%以下 女 20%以下 (H34)	〃	同左
	36 週労働時間60時間以上の就業者の割合の減少(年間200日以上)の就業)	15.2% (H19)	9.9% (H24)	(減少)	—		減少 (H34)	就業構造 基本調査	同左
飲 酒	37 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者(成人1日当たりの純アルコール摂取量 男性40g以上、女性20g以上の者)の割合の減少	男 17.7% 女 8.1% (H21～23)	男 15.4% 女 12.4% (H25～27)	男 16.8% 女 7.7% (H26)	◎ ×	C	男 15% 女 7% (H34)	県民健康・栄養 調査	同左
	38 未成年者の飲酒をなくす(0%にする)	男 20.8% 女 15.8% (H22)	男 21.6% 女 25.6% (H25～27)	男 13.9% 女 10.5% (H26)	× ×		男 0% 女 0% (H34)	〃	同左
	39 妊娠中の飲酒をなくす(0%にする)	4.5% (H23)	2.6% (H27)	2.9% (H27)	◎		0% (H34)	県市町村 調査	同左
喫 煙	40 成人の喫煙率の減少	男 30.8% 女 8.3% (H22)	男 26.9% 女 9.7% (H25～27)	男 27.5% 女 7.0% (H26)	◎ ×	C	男 25% 女 6% (H29)	県民健康・栄養 調査	同左
	41 未成年者の喫煙をなくす(0%にする)	男 8.3% 女 5.3% (H22)	男 5.4% 女 2.6% (H25～27)	男 3.5% 女 2.3% (H26)	△ △		男 0% 女 0% (H29)	〃	同左
	42 妊娠中の喫煙をなくす(0%にする)	3.5% (H23)	2.9% (H27)	2.2% (H27)	△		0% (H34)	県市町村 調査	同左
	43 神奈川県公共施設における喫煙防止条例の施行に際しては、喫煙者に対する健康への影響を軽減するための取組を進め、家庭での喫煙機会を減らす。			(減少)	◎		減少 (H29)		

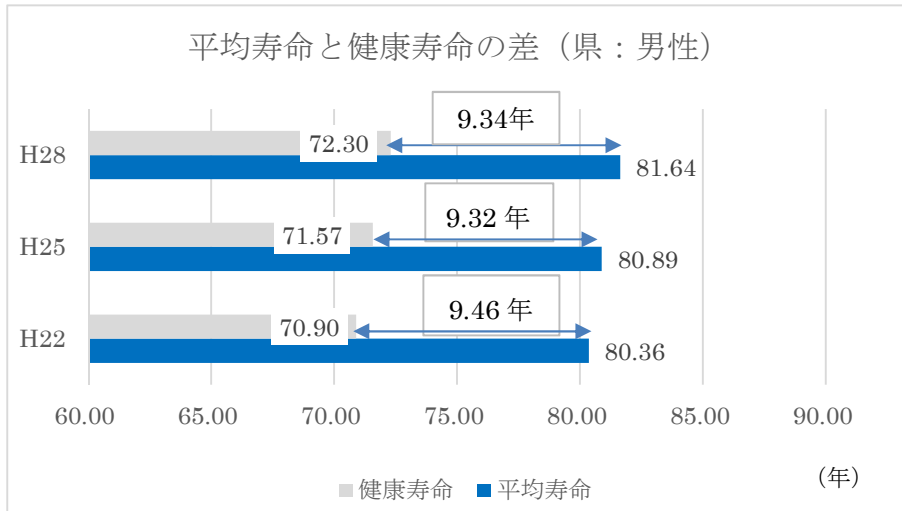
分野	目標項目	基準値 (基準年)	直近実績値 (年)	達成予測値 (年)	細目標 項目別 評価	各分野別 目標項目 達成状況	最終目標値 (年)	出典元 (基準 値)	出典元 (直近実 績値)
歯・ 口腔の 健康	44 60歳代 における咀嚼満足者の 割合の増加	70.3% (H23)	73.8% (H28)	74.7% (H28)	△	B	80% (H34)	県民歯科 保健実態 調査	同左
	45 80歳(75 ～84歳)で 20本以上の 自分の歯を 有する者の 割合の増加	34.6% (H22)	44.7% (H25～27)	44.7% (H26)	◎		65% (H34)	県民健康・栄養 調査	同左
	46 60歳(55 ～64歳)で 24本以上の 自分の歯を 有する者の 割合の増加	75.4% (H23)	74.2% (H28)	79.8% (H28)	×		85% (H34)	県民歯科 保健実態 調査	同左
	47 40歳(35 ～44歳)で 喪失歯のない者の割合 の増加	46.2% (H23)	60.8% (H28)	54.8% (H28)	◎		65% (H34)	県民歯科 保健実態 調査	同左
	48 20歳代 における歯 肉に異常所 見のない者の 割合の増加	41.2% (H23)	46.0% (H28)	45.2% (H28)	◎		50% (H34)	県民歯科 保健実態 調査	同左
	49 40歳代 における進行 した歯周病 を有する者 の割合の減少	24.7% (H23)	— 検査方法 改定のため	—	— 分析不能		15% (H34)	県民歯科 保健実態 調査	同左
	50 60歳代 における進行 した歯周病 を有する者 の割合の減少	74.3% (H23)	— 検査方法 改定のため	—	— 分析不能		65% (H34)	県民歯科 保健実態 調査	同左
	51 3歳児で むし歯がない者の割合が 80%以上である市町村の 増加	18市町村 (54.5%) (H22)	29市町村 (87.9%) (H26)	23市町村 (69.7%) (H26)	◎		33市町村 (100%) (H34)	県母子保健報告及び健康増 進課調べ	同左
	52 12歳児の 一人平均 むし歯数が 1.0本未満 である圏域 の増加	5圏域 (62.5%) (H22)	6圏域 (75.0%) (H27)	6圏域 (75.0%) (H27)	◎		8圏域 (100%) (H34)	県12歳 児学校歯 科健康診 断結果調 査	同左
	53 過去1年 間に歯科 検診を受診 した者の割合 の増加	41.1% (H23)	49.2% (H28)	54.3% (H28)	△		70% (H34)	県民歯科 保健実態 調査	同左

*目標項目52の文中の「圏域」とは、保健医療計画における二次医療圏のうち、横浜市及び川崎市を各1医療圏とする全8圏域を指しています。

2 目標分野別の評価

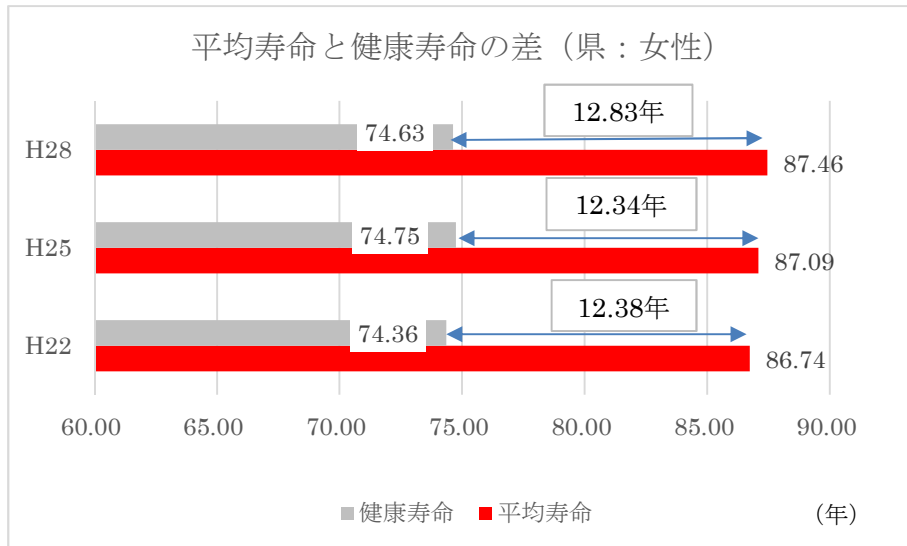
分野名	(1) 全体目標 健康寿命の延伸と健康格差の縮小 (2項目)																	
	1	平均寿命の延伸の増加分を上回る健康寿命の延伸をはかる																
2	県内の各地域の健康格差の縮小をはかる																	
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分																
	1 / 4 (25%)	C																
総合的な評価	Ⅲ やや進捗が遅れている 【数値目標】 ○ 男性は、平均寿命の延伸の増加分を上回る健康寿命の延伸が、図られましたが、女性は図られませんでした。 ○ 「65歳からの平均自立期間」でみる県内の各地域の健康格差は、男女ともに基準値と比較して直近実測値は差が見られず、目標の「縮小」を達成しませんでした。 【関連する取組み】 ○ 県・市町村・関係団体が、それぞれの専門性を生かし幅広い分野で連携しながら、「健康寿命の延伸と各地域の健康格差の縮小」の推進に向け健康づくり事業に取り組みました。																	
	各目標項目の分析	① 平均寿命の延伸の増加分を上回る健康寿命の延伸をはかる <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>健康寿命(男性)</p> <table border="1"> <caption>健康寿命(男性)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>健康寿命(年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>70.90</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>71.57</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>72.30</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【分析】 ○ 基準値 (H22) は 70.90 年で、直近実績値 (H28) は 72.30 年である。(有意差あり) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>健康寿命(女性)</p> <table border="1"> <caption>健康寿命(女性)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>健康寿命(年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>74.36</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>74.75</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>74.63</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【分析】 ○ 基準値 (H22) は 74.36 年で、直近実績値 (H28) は 74.63 年である。(有意差なし) </div> </div>		年度	健康寿命(年)	H22	70.90	H25	71.57	H28	72.30	年度	健康寿命(年)	H22	74.36	H25	74.75	H28
年度		健康寿命(年)																
H22	70.90																	
H25	71.57																	
H28	72.30																	
年度	健康寿命(年)																	
H22	74.36																	
H25	74.75																	
H28	74.63																	

※ 健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと



【分析】 達成状況 ◎

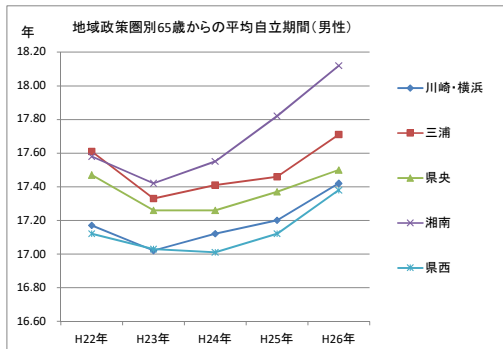
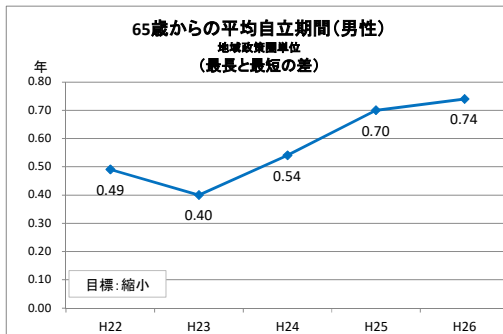
- H22 と H28 の健康寿命の差は 1.40 年、平均寿命の差は 1.28 年である。
- 平均寿命の延伸の増加分を上回る健康寿命の延伸が図られている。平均寿命と健康寿命の差＝日常生活に制限のある期間は、H22 に比べ H28 は 0.12 年短くなっている。



【分析】 達成状況 ×

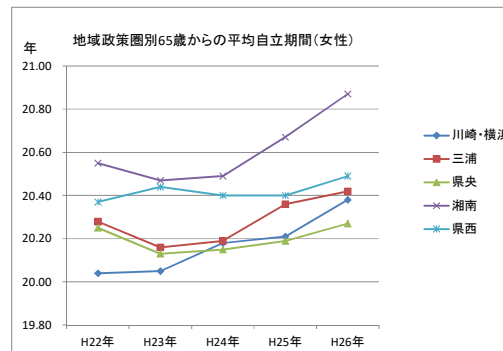
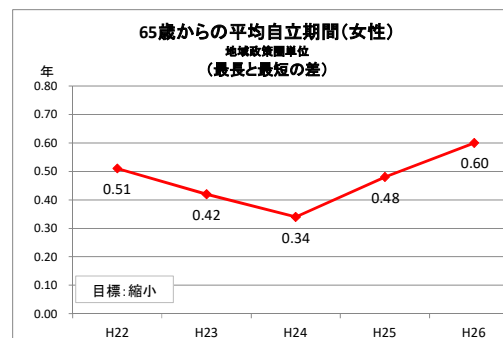
- H22 と H28 の健康寿命の差は 0.27 年、平均寿命の差は 0.72 年である。
- 平均寿命の延伸の増加分を上回る健康寿命の延伸は、図られていない。平均寿命と健康寿命の差＝日常生活に制限のある期間は、H22 に比べ H28 は 0.45 年長くなっている。

② 県内の各地域の健康格差の縮小をはかる



【分析】 達成状況 ×

- 地域政策圏別の 65 歳からの平均自立期間における最長と最短の差は、基準値 (H22) は 0.49 年で、直近実績値 (H26) は 0.74 年である。(有意差なし)
- H22 の最長は三浦半島地域で、最短は県西地域である。
- H26 の最長は湘南地域で、最短は県西地域である。



【分析】 達成状況 ×

- 地域政策圏別の 65 歳からの平均自立期間の最長と最短の差は、基準値は (H22) 0.51 年で、直近実績値は (H26) 0.60 年である。(有意差なし)
- H22 の最長は湘南地域で、最短は川崎・横浜地域である。
- H26 の最長は湘南地域で、最短は県央地域である。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">各 目 標 項 目 の 分 析</p>	<p>地域政策圏</p> <p>県の施策を地域で展開するために5つの地域政策圏に区分したものの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎・横浜地域：横浜市、川崎市 ・三浦半島地域：横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町 ・県央地域：相模原市、厚木市、大和市、海老名市 座間市、綾瀬市、愛川町、清川村 ・湘南地域：藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町、平塚市、秦野市 伊勢原市、大磯町、二宮町 ・県西地域：小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町 山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関 連 し た 主 な 取 組 み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神奈川県 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生100歳時代を見据え、健康寿命を延ばし、いつまでも元気でいきいきとくらす社会の実現に向けて、県民一人ひとりの生活習慣の改善による健康づくりを促進するための環境整備を県民運動として推進しました。 ・ 健康づくりに加え、疾病の早期発見、適切な治療管理による疾病の重症化予防、さらには介護予防や介護サービスの充実、地域のつながりの強化等の多分野の取組みの総合的な結果として、健康寿命の延伸と健康格差を縮小するよう取り組みました。 ○ 市町村 <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康増進計画に基づき、市町村の実態に応じた健康づくり事業を行いました。 ・ 住民に身近な拠点で健康相談や健康教育など行うとともに、各分野の関係団体と連携し、健康づくりに関する情報提供やパンフレット等による普及啓発を行いました。 ・ 住民が自ら取り組む健康づくりを支援するため、健康づくり指導者の育成や支援、地域コミュニティの活性化を図る等の取り組みを行いました。 ○ 関連団体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業、保険者、学校、健康関連団体等が、それぞれ団体の専門性を活かした健康づくりの取組みを推進しました。 ・ 働く世代の生活習慣病予防のための健診等の取組みや、子ども達が自ら健康づくりを実践できる力を育む教育、地域住民や地域団体の自主的な活動を支援するための健康づくりに関する情報提供や普及啓発など、幅広い分野で様々な取組みが行われました。

今後の課題

- 地域政策圏別の 65 歳からの平均自立期間の差が縮小していないことから、今後も引き続き地域特性に応じた健康づくりの取組みを進める必要があります。
- 各機関の健康づくりの取組みを評価するとともに、実践について関係機関間で共有し、効果的な健康づくりの推進を図る必要があります。

分野名	(2) 社会的な目標	
	ア	主な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底 (12項目)
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分
	9 / 22 (41%)	C
総体的な評価	<p>Ⅱ 比較的順調に進捗している</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がんの75歳未満の年齢調整死亡率は、基準値と比較して直近実績値は低くなっていますが、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 胃がん、大腸がん、肺がんのがん検診受診率は、基準値と比較して直近実績値は高くなっており、目標達成予測値を達成しました。 ○ 乳がん、子宮がん(子宮頸がん)のがん検診受診率は、基準値と比較して直近実績値は高くなっていますが、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率は、男女ともに、基準値と比較して直近実績値は低くなっており、目標達成予測値を達成しました。 ○ 高血圧の改善では、収縮期血圧が男女ともに、基準値と比較して直近実績値は高くなっており、基準値より悪化しました。 ○ 脂質異常症の減少では、LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合が、男性は基準値12.4%、直近実績値13.2%であり、女性は基準値と比較して直近実績値は高くなっており、男女とも基準値に満たず目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合は、基準値1.1%、直近実績値0.9%であり、目標達成予測値を達成しました。 ○ 糖尿病有病者は、基準値と比較して直近実績値は多くなっており、増加数は抑制されず、目標達成予測値を上回りました。 ○ 糖尿病治療継続者の割合は、基準値と比較して直近実績値は有意差はありませんでしたが、目標達成予測値を達成しました。 ○ 糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数は、年によりばらつきがありますが、目標達成予測値を達成できていません。 ○ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の認知度は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成しませんでした。 	

総体的な評価

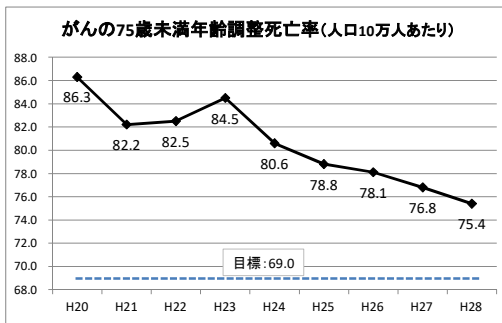
- 特定健康診査・特定保健指導の実施率は、基準値と比較して直近実績値は高くなっていますが、目標達成予測値を達成しませんでした。
- メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合は、基準値と比較して直近実績値は低くなっていますが、目標達成予測値を達成しませんでした。

【関連する取組み】

- 生活習慣病の発症予防や重症化予防に向け、自らの健康状態を確認するためのがん検診や特定健診の実施をはじめ、循環器疾患発症の危険因子となる高血圧や脂質異常等の低減を図るため、保健指導や食生活・未病改善に関する普及啓発、健康づくりの実践の場として未病センターの設置などを行いました。

各目標項目の分析

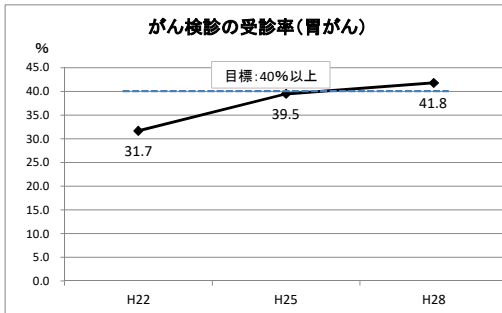
① がんの75歳未満の年齢調整死亡率の減少(人口10万対)



【分析】 達成状況 △

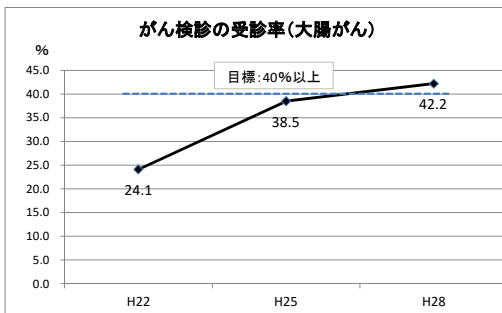
- 基準値 (H20) は 86.3 で、直近実績値 (H28) は 75.4 である。(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (70.9) を達成していない。

② がん検診受診率の向上



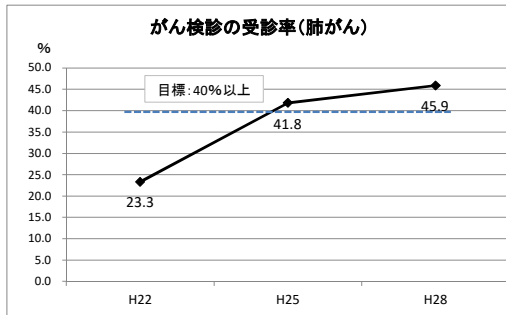
【分析】 達成状況 ◎

- 基準値 (H22) は 31.7% で、直近実績値 (H28) は 41.8% である。(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (38.8%) を達成している。



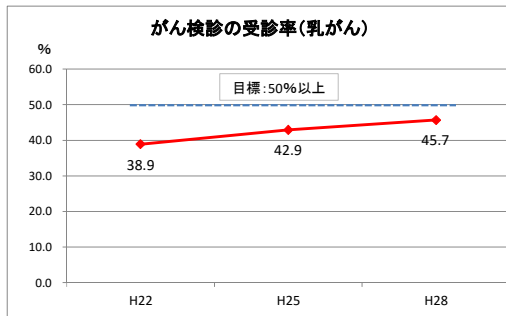
【分析】 達成状況 ◎

- 基準値 (H22) は 24.1% で、直近実績値 (H28) は 42.2% である。(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (37.7%) を達成している。



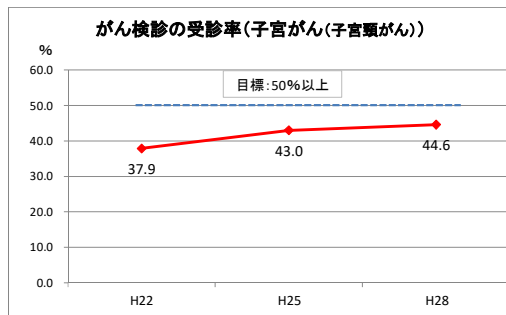
【分析】 達成状況 ◎

- 基準値 (H22) は 23.3%で、直近実績値 (H28) は 45.9%である。(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (37.6%) を達成している。



【分析】 達成状況 △

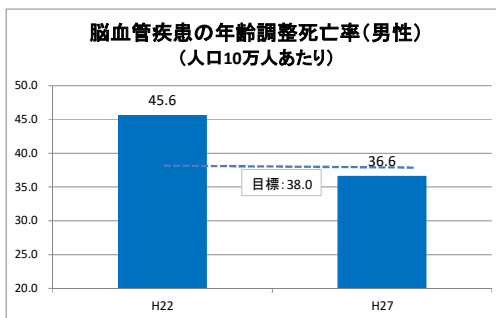
- 基準値 (H22) は 38.9%で、直近実績値 (H28) は 45.7%である。(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (48.4%) を達成していない。



【分析】 達成状況 △

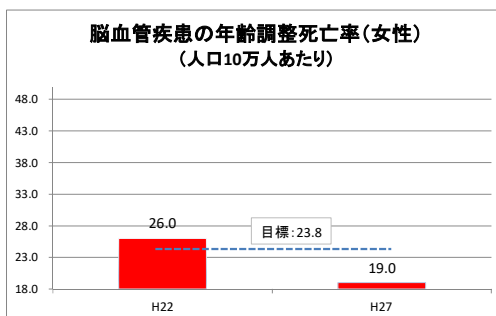
- 基準値 (H22) は 37.9%で、直近実績値 (H28) は 44.6%である。(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (48.3%) を達成していない。

③ 脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少(人口10万対)



【分析】 達成状況 ◎

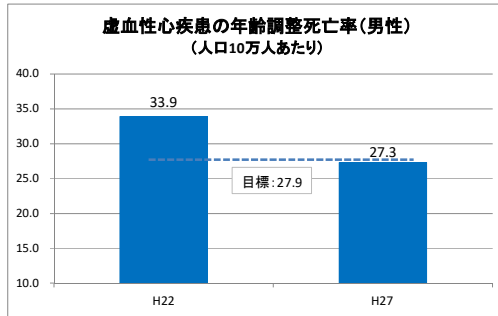
- 基準値 (H22) は 45.6で、直近実績値 (H27) は 36.6 である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (42.5) を達成している。



【分析】 達成状況 ◎

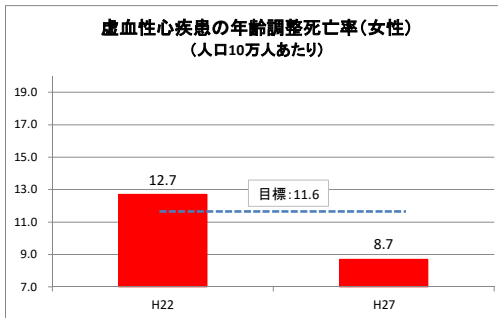
- 基準値 (H22) は 26.0で、直近実績値 (H27) は 19.0 である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (25.1) を達成している。

各
目
標
項
目
の
分
析



【分析】 達成状況 ◎

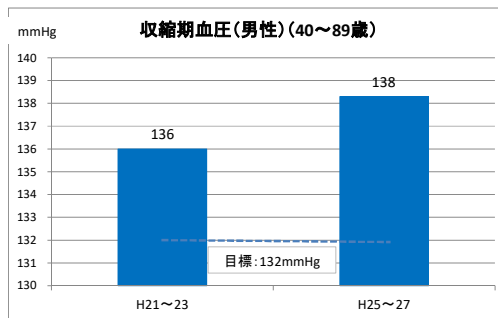
- 基準値 (H22) は 33.9 で、直近実績値 (H27) は 27.3 である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (31.4) を達成している。



【分析】 達成状況 ◎

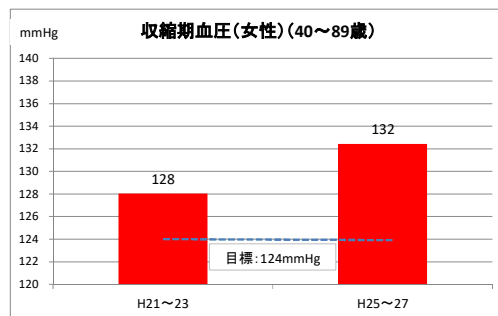
- 基準値 (H22) は 12.7 で、直近実績値 (H27) は 8.7 である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (12.3) を達成している。

④ 高血圧の改善(40～89歳)



【分析】 達成状況 ×

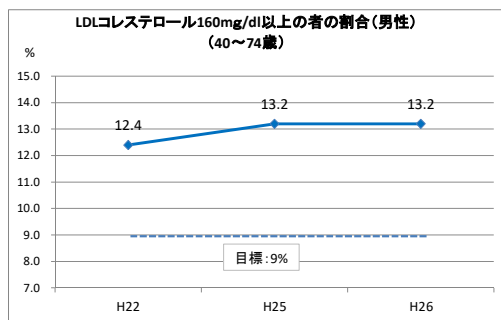
- 基準値 (H21～23) は 136mmHg で、直近実績値 (H25～27) は 138mmHg である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 (135mmHg) を達成していない。



【分析】 達成状況 ×

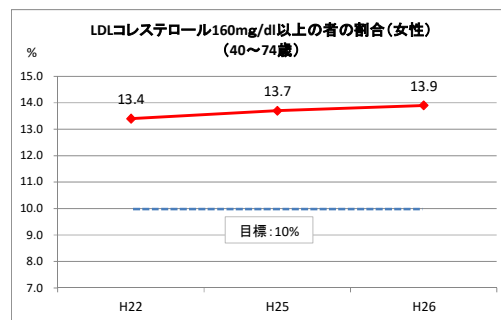
- 基準値 (H21～23) は 128mmHg で、直近実績値 (H25～27) は 132mmHg である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 (127mmHg) を達成していない。

⑤ 脂質異常症の減少(40～74歳)



【分析】 達成状況 ×

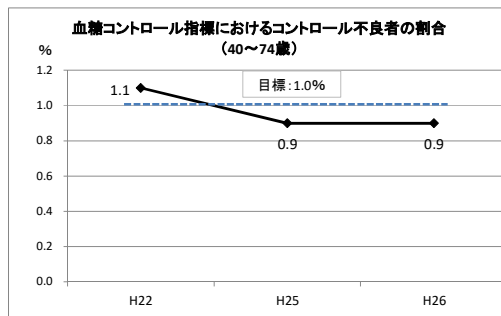
- 基準値 (H22) は 12.4%で、直近実績値 (H26) は 13.2% である。
- H26 年の目標達成予測値 (11.3%) を達成していない。



【分析】 達成状況 ×

- 基準値 (H22) は 13.4%で、直近実績値 (H26) は 13.9% である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 (12.3%) を達成していない。

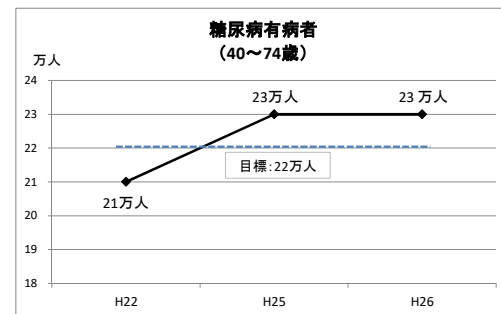
⑥ 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少(40～74歳)



【分析】 達成状況 ◎

- 基準値 (H22) は 1.1%で、直近実績値 (H26) は 0.9% である。
- H26 年の目標達成予測値 (1.1%) を達成している。

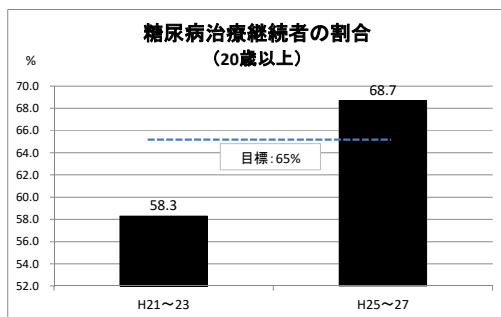
⑦ 糖尿病有病者の増加の抑制(40～74歳)



【分析】 達成状況 ×

- 基準値 (H22) は 21 万人で、直近実績値 (H26) は 23 万人である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 (21 万人) を上回っている。

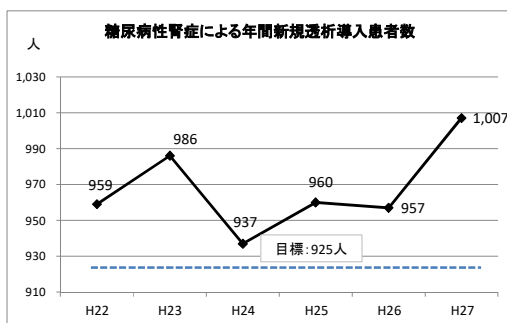
⑧ 糖尿病治療継続者の割合の増加(20歳以上)



【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H21~23) は 58.3% で、直近実績値 (H25~27) は 68.7% である。(有意差なし)
- H26 年の目標達成予測値 (60.5%) を達成している。

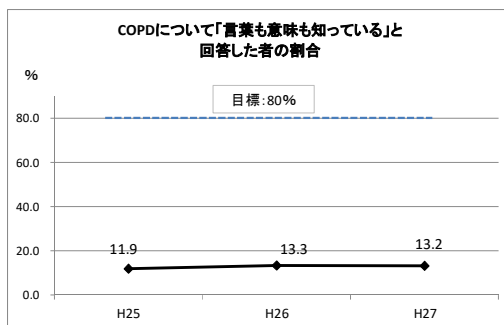
⑨ 合併症(糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数)の減少



【分析】達成状況 ×

- 基準値 (H22) は 959 人で、直近実績値 (H27) は 1,007 人である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (945 人) を達成していない。

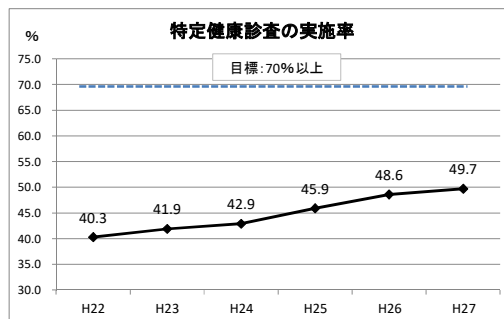
⑩ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の認知度の向上



【分析】達成状況 △

- 基準値 (H25) は 11.9% で、直近実績値 (H27) は 13.2% である。(有意差なし)
- H27 年の目標達成予測値 (27.0%) を達成していない。

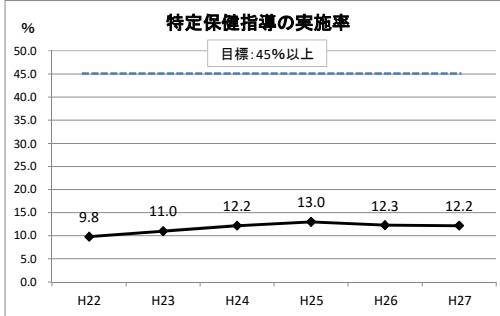
⑪ 特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上



【分析】達成状況 △

- 基準値 (H22) は 40.3% で、直近実績値 (H27) は 49.7% である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (61.5%) を達成していない。

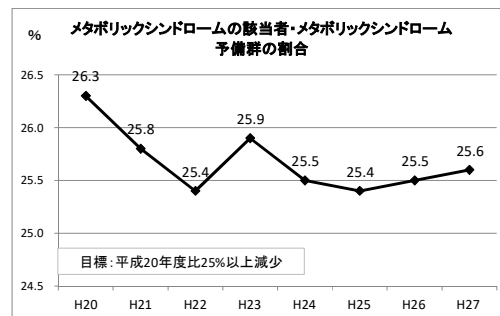
各
目
標
項
目
の
分
析



【分析】 達成状況 △

- 基準値 (H22) は 9.8% で、直近実績値 (H27) は 12.2% である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (35.0%) を達成していない。

⑫ **メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少**



【分析】 達成状況 △

- 基準値 (H20) は 26.3% で、直近実績値 (H27) は 25.6% である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (21.2%) を達成していない。

関
連
し
た
主
な
取
組
み

- **神奈川県 (がん)**
 - ・ がん検診の受診率の向上に向け、協定企業との連携によるがん対策推進員制度の創設、企業の健康づくり担当者に対する研修や県民への普及啓発など、地域・職域と連携した取組みを行いました。
 - ・ 中学・高校生を対象にした「がん教育」を実施し、がんに対する正しい知識の習得を図る取組みを進めました。
- (循環器疾患)
 - ・ 食塩や野菜・果物の適正摂取や適正体重の維持あるいは、身体活動・運動・多量飲酒等の生活習慣の改善について普及啓発を行いました。
- (糖尿病)
 - ・ 生活習慣病の重症化を抑制するため、効果的な保健指導 (かながわ方式保健指導) を市町村へ普及しました。
 - ・ 働く世代の生活習慣病対策を強化するため、中小企業の事業主に対して、従業員の健康づくりや、社内の健康管理体制構築に向けた研修会や助言指導を行いました。
 - ・ 世界糖尿病デーに合わせ、県庁をブルーにライトアップするイベントを開催し、糖尿病対策の重要性について普及啓発を行いました。
- (慢性閉塞性肺疾患 (COPD))
 - ・ 県民の認知度を把握するとともに、喫煙防止対策の啓発の際に、県民に対して周知しました。

<p>関連した主な取り組み</p>	<p>(未病対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の未病改善の実践を支援するため、手軽に健康状態や体力等をチェックし、その結果に基づくアドバイスや未病改善に関する情報提供を受けられる「未病センター」の設置を促進しました。 ・ 市町村等が設置する未病センターの活動の充実のため、企業・団体が未病改善に資する講座等を提供する「健康支援プログラム」を開始しました。 <p>○ 市町村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 40歳から74歳までの国民健康保険被保険者に対して、特定健康診査や特定保健指導を実施しました。 ・ がん検診の受診体制整備や、受診促進のための普及啓発などを実施しました。 <p>○ 関連団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県保険者協議会と県が連携し、特定健康診査・特定保健指導担当者の資質向上のための研修会を開催しました。 ・ 生活習慣病予防の発症予防などを目的として、イベント会場で、健康・栄養相談やパンフレットの配布などの普及啓発を実施しました。 ・ 糖尿病予防のためのバランスのとれた献立をホームページへ掲載しました。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高血圧や脂質異常症は、循環器疾患の危険因子ですが、基準値より値が高くなっているため、食生活や運動など生活習慣の改善に向け、取り組みを強化する必要があります。 ○ 糖尿病は、新規透析導入患者の最大の原因疾患であり、様々な合併症を併発することから、血糖コントロール不良者の割合をさらに減少させ、重症化予防対策に積極的に取り組む必要があります。 ○ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の直近の認知度は、依然として非常に低い水準にあることから、たばこ対策と効果的に連動するなど普及啓発を促進する必要があります。 ○ 特定健康診査・特定保健指導の実施率は、依然として非常に低い水準にあることから、対象者が受診しやすい環境整備や未受診者対策など医療保険者と連携した取り組みを進める必要があります。 ○ メタボリックシンドロームの該当者・メタボリックシンドローム予備群の割合の減少に向け、生活習慣改善のための効果的な保健指導の取り組みなどを進める必要があります。

【コラム】

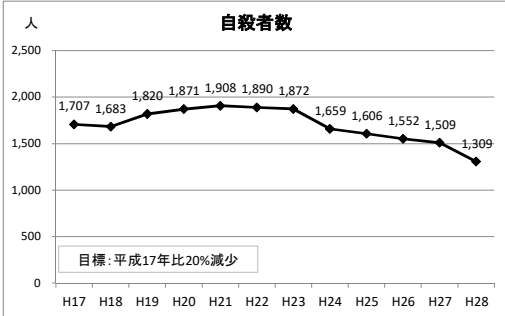
「健診結果説明会」

大磯町では、平成 24 年度より生活習慣病予防のため、特定健康診査受診者を対象に「健診結果説明会」を開催し、平成 28 年度末までに延べ 1,184 人が参加しました。参加者からは「大切なのは健診後の生活習慣だと分かった」「かかりつけ医に健診結果について相談しようと思った」等の声があり、要医療者が適切な医療に繋がるだけでなく、生活習慣や服薬等と検査値の関係について理解することで自身の健康度が分かり、継続的に健康づくりに取り組む動機付けとなっています。



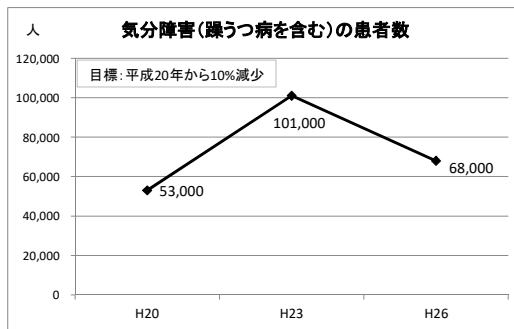
「腎臓を守るための保健指導」

座間市では、平成 25 年度より医療費適正化対策として、CKD（慢性腎臓病）予防に取り組んでいます。特定健康診査結果から、指導対象者に個別通知で案内し、希望者は電話にて申し込みます。併せて、参加勧奨のための家庭訪問を実施しています。保健師・管理栄養士からの集団指導後、個別面接を行い、初回指導から 1 か月後、3 か月後に、それぞれに面接または電話で状況確認、助言をする他、フォローアップ講座を年 4 回開催し、グループ指導の機会を設けています。また、初回指導前後、1 か月後、6 か月後に、知識の定着や行動変容を確認するためのアンケートを実施し、事業評価を行っています。

分野名	(2) 社会的な目標	
	イ	社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上 イ-1 こころの健康 (2項目)
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分
	1 / 2 (50 %)	B
総合的な評価	II 比較的順調に進捗している 【数値目標】 ○ 自殺者数は、基準値と比較して直近実績値は少なくなっており、目標達成予測値を達成しました。 ○ 気分障害（躁うつ病を含む）の患者数は、基準値と比較して直近実績値は多くなっており、基準値に満たず目標達成予測値を達成しませんでした。 【関連する取組み】 ○ あらゆる世代を対象に、こころの健康づくりを推進するため、電話相談やリフレッシュのためのウォーキングイベント、講演会などを行いました。 ○ 自殺対策として、働く世代をターゲットとした相談や講演会の開催、また、ゲートキーパー等の人材育成を行いました。	
	各目標項目の分析	① 自殺者数の減少 

各
目
標
項
目
の
分
析

② 気分障害(躁うつ病を含む)の患者数の減少



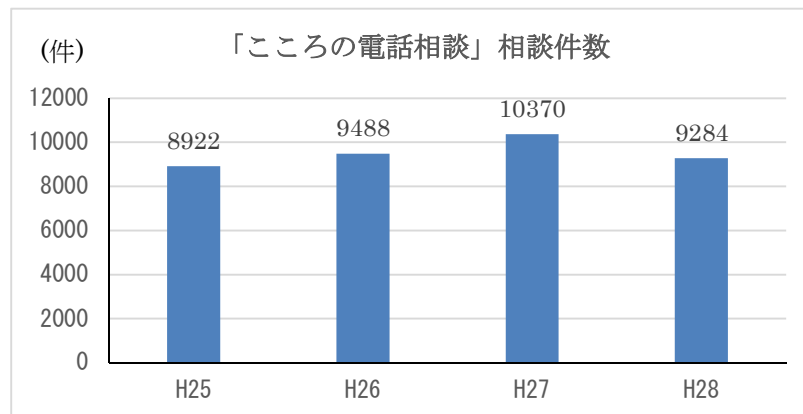
【分析】 達成状況 ×

- 基準値 (H20) は53,000人で、直近実績値 (H26) は68,000人である。(有意差あり)
- H26年の目標達成予測値(50,857人)を達成していない。

関
連
し
た
主
な
取
組
み

○ 神奈川県

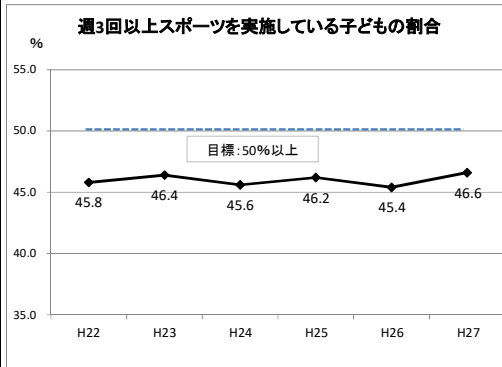
- ・ 自殺対策の総合的な推進を図り、自殺予防のための普及啓発、ゲートキーパー等の人材養成、うつ病対策、多職種の専門チームによる訪問支援、自殺未遂者や自死遺族への支援等を、関係機関・団体等と連携しながら幅広く取り組みました。
- ・ こころの健康づくり等を推進するために、あらゆる世代や対象に向け、健康に関する普及啓発や相談機関の周知や従事者の研修等を行いました。
- ・ こころの病気かどうかの不安や、生活・仕事に関する悩み等の相談を受けるため、フリーダイヤルによる「こころの電話相談」を実施しました。



<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関連した主な取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代のメンタルヘルス対策のため、相談や講演会を実施しました。 <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <caption>「働く人のメンタルヘルス」相談状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>相談件数(件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>91</td> </tr> </tbody> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自然・歴史などを紹介しながら歩き、自然環境の魅力を感じてリフレッシュできるウォーキングイベントを開催しました。 <p>○ 市町村</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲートキーパーの養成や研修による、人材育成を行いました。 メンタルヘルス相談の実施や、自殺対策のための普及啓発を行いました。 <p>○ 関連団体</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立都市公園における森林セラピー体験ウォークを実施しました。 市民公開講座等においてこころの健康づくりや自殺予防に関する普及啓発を行いました。 	年度	相談件数(件)	H24	106	H25	90	H26	98	H27	84	H28	91
年度	相談件数(件)												
H24	106												
H25	90												
H26	98												
H27	84												
H28	91												
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<p>○ 本県の自殺者数は減少傾向にありますが、中高年の男性の割合が多く、中でも40歳代が最も多いことや、若年層の自殺者が減らない現状を踏まえ、地域と職域が連携し、働く世代のメンタルヘルス対策やうつ病対策、若年層対策を重点的に取り組むなど、「かながわ自殺対策計画」に基づく、自殺予防及びこころの健康づくり対策をさらに推進する必要があります。</p>												

分野名	(2) 社会的な目標						
	イ	社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上 イー2 次世代の健康 (4項目)					
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分					
	2 / 5 (40 %)	C					
総合的な評価	II 比較的順調に進捗している 【数値目標】 ○ 朝食を欠食する小学5年生の割合は、基準値と比較して直近実績値は差がなく、平成24年に比べ見かけ上プラス0.6ポイントでした。 ○ 子どもの週3回以上のスポーツ実施率は、基準値と比較して直近実績値は高くなっており、非実施率は低くなっていますが、ともに目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 全出生数中の低出生体重児の割合は、基準値と比較して直近実績値は差がなく、平成23年に比べマイナス0.1ポイントでした。 ○ 小学5年生の肥満傾向の割合は、基準値9.0%、直近実績値7.8% (速報値) であり、目標の「減少」を達成しました。						
	【関連する取組み】 ○ 幼少期から食事や運動習慣など健康的な生活習慣を身につけるため、アニメキャラクターなどを活用したわかりやすい普及啓発や学校に対する体力向上サポーターの派遣、子どもの生活習慣病予防対策教室などを行いました。 ○ 食育を推進するための体制整備や人材育成を行いました。 ○ 低出生体重児の要因といわれる妊娠前・妊娠期の母親の適正体重の維持や喫煙、飲酒等の生活習慣の改善について、保健指導を行いました。						
各目標項目の分析	① 朝食を欠食する小学5年生の割合の減少						
	<table border="1"> <caption>朝食を欠食する小学5年生の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>4.6</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合 (%)	H24	4.0	H29	4.6
年度	割合 (%)						
H24	4.0						
H29	4.6						

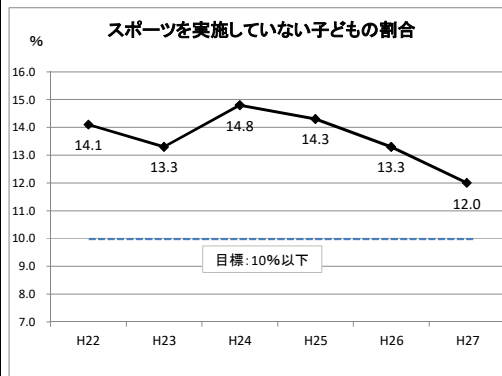
② 子どもの週3回以上のスポーツ実施率の増加



【分析】 達成状況 △

- 基準値 (H22) は 45.8%で、直近実績値 (H27) は 46.6%である。(有意差あり)
- H27 年の目標値達成予測値 (50%以上) を達成していない。

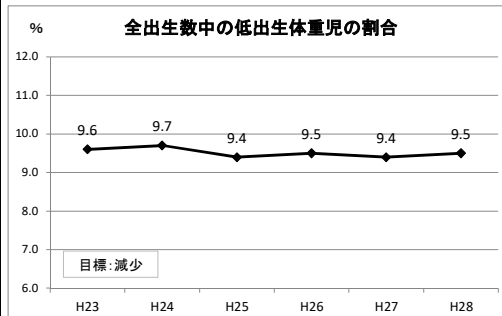
子どもの週3回以上のスポーツ非実施率の減少



【分析】 達成状況 △

- 基準値 (H22) は 14.1%で、直近実績値 (H27) は 12.0%である。(有意差あり)
- H27 年の目標達成予測値 (10%以下) を達成していない。

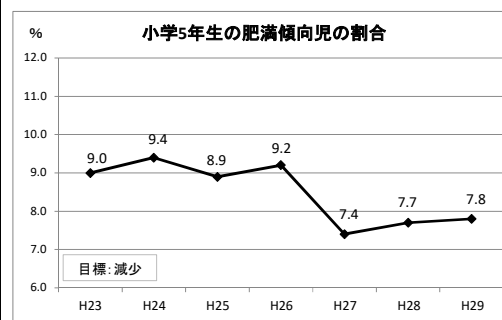
③ 全出生数中の低出生体重児の割合の減少



【分析】 達成状況 ◎

- 基準値 (H23) は 9.6%で、直近実績値 (H28) は 9.5%である。(有意差なし)
- H23 年に比べ見かけ上マイナス 0.1 ポイントである。

④ 小学5年生の肥満傾向の割合の減少



【分析】 達成状況 ◎

- 基準値 (H23) は 9.0%で、直近実績値 (H29) は 7.8%である。
- 対 H23 年でマイナス 1.2 ポイントと、マイナス目標を達成している。

○ 神奈川県

- ・ 幼少期から健康的な食習慣を身につけるために、保護者はもとより教育・保育に携わる方、関係団体等が連携して、食育を推進するための体制整備を行いました。
- ・ 子どもの頃から、食事や運動習慣など健康的な生活習慣を身に付けることの重要性を普及啓発する九都県市共同の取組みとして、共通で使用できるポスターを作成し、県内の小学生及び未就学児が通う施設へ周知を図るとともに、デジタル・コンテンツを作成し、トレインビジョン・大型ビジョン等へ掲載して周知を図りました。
- ・ アニメキャラクター「かなかなかぞく」を用いて、食事や運動習慣など健康的な生活習慣を身につけることの大切さを普及する内容のリーフレット「かなかな練習帳」を作成し、県内全ての小学校及び幼稚園・保育所等に配布しました。
- ・ 未就学児の基礎的な運動機能の発達と体力の向上を促し、健やかな成長を支援するため、就学前児童の教育・保育に従事する指導者向けの「運動」に関する研修を行いました。
- ・ また、食育の視点から、子どもの発育・発達に応じた食べる力を育むための人材育成等を行いました。
- ・ 子どもの体力・運動能力の向上、運動習慣の確立、生活習慣の改善のため、学校の体力向上の取組みを指導する体力向上キャラバン隊や体力向上サポーターの派遣、夏休みのラジオ体操の普及活動などを行いました。

体力合計点の推移

小学5年生 男子 (点)

H25	H26	H27	H28
52.85	52.49	52.44	52.92

小学5年生 女子 (点)

H25	H26	H27	H28
52.55	52.47	52.61	53.69

出典：平成28年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査

8項目の実技テスト（各項目1～10点）の合計点である。

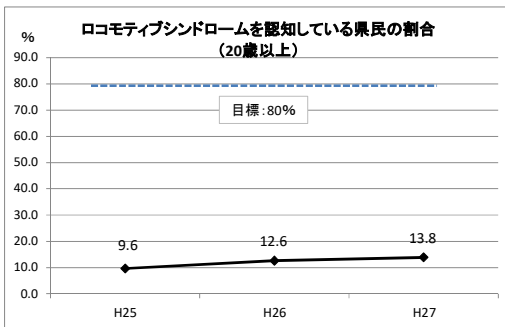
○ 市町村

- ・ 低出生体重児の要因といわれる妊娠前・妊娠期の母親の適正体重の維持や喫煙、飲酒等の生活習慣の改善について、保健指導を行いました。
- ・ 学校においても、適切な食習慣を身につけるための食育を推進しました。

<p>関連した主な取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で子育てのしやすい環境をつくっていくため、子育てに関する幅広い情報提供や親子で楽しめる体験ができる子育てフェアなどを開催しました。 ・ 子どもの生活習慣病予防対策教室を開催し、食習慣などの指導を行いました。 <p>○ 関連団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村祭りなどの機会を捉え、子ども達へ栄養・健康相談を行いました。 ・ 団体が実施するスポーツ教室で、子ども達がスポーツを体験する機会を提供しました。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝食を欠食する小学5年生の割合は改善が見られないため、引き続き学校、家庭、地域が協働して子どもの健やかな食習慣の定着に向けた取り組みを行う必要があります。 ○ 文部科学省の「体力・運動能力調査」によると、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が認められており、運動嫌いやスポーツが苦手な子どもたちが、自由な時間でスポーツに楽しめる場や、気軽に活動できるような仕組みづくりを行う必要があります。

分野名	(2) 社会的な目標												
	イ	社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上 イ-3 高齢者の健康 (3項目)											
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分											
	1 / 3 (33%)	C											
総体的な評価	II 比較的順調に進捗している 【数値目標】 ○ 介護保険サービス利用者は、基準値と比較して直近実績値は多くなっており、増加が縮小されず目標達成予測値を上回りました。 ○ ロコモティブシンドロームを認知している20歳以上の県民の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 低栄養傾向の高齢者の割合は、基準値と比較して直近実績値は高くなっていますが、増加数が抑制され、目標達成予測値を下回りました。 【関連する取組み】 ○ 要支援・要介護状態の予防のため、高齢者の食生活改善や認知症予防としてコグニサイズの普及、高齢者が無理なく取り組める体操や運動の推進、介護予防や健康づくり実践者の養成などを行いました。 * 「コグニサイズ」とは、コグニション（認知）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語で、頭で考えるコグニション課題と身体を動かすエクササイズ課題を同時に行うことで、脳と身体の機能を効果的に向上させることが期待されます。												
	① 介護保険サービス利用者の増加の縮小 <table border="1"> <caption>介護保険サービス利用者</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【分析】 達成状況 △ ○ 基準値 (H24) は 26 万人、直近実績値 (H28) は 32 万人である。 (有意差あり) ○ H28年の目標達成予測値 29 万人を超えている。 </div>		年度	利用者数 (万人)	H24	26	H25	28	H26	29	H27	30	H28
年度	利用者数 (万人)												
H24	26												
H25	28												
H26	29												
H27	30												
H28	32												
各目標項目の分析													

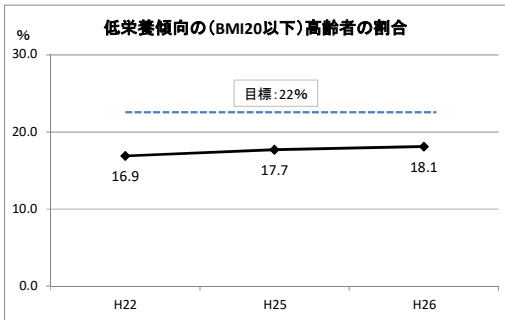
② ロコモティブシンドロームを認知している 20 歳以上の県民の割合の増加



【分析】 達成状況 △

- 基準値 (H25) は 9.6%、直近実績値 (H27) は 13.8%である。(有意差なし)
- H27 年の目標達成予測値 25.2%を達成していない。

③ 低栄養傾向の高齢者の増加の抑制



【分析】 達成状況 ◎

- 基準値 (H22) は 16.9%、直近実績値 (H26) は 18.1%である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 18.6%を下回っている。

- 神奈川県
 - ・ 認知症のリスクを軽減するため、コグニサイズを実演できるコミュニケーションロボットや気軽に体験できる運動機器等も活用して、コグニサイズの普及を図りました。
 - ・ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の知識を普及するとともに、高齢者が無理なく楽しんで取り組める散歩や運動を促す取組みを進めました。
 - ・ 高齢者でも無理なく楽しんで運動に取り組めるよう、ノルディック・ウォーキング体験会などの機会を提供しました。
 - ・ 市町村等が実施する介護予防事業の従事者として、介護予防・健康づくりを実践する「かながわ介護予防・健康づくり運動指導員」の養成を行いました。
- 市町村
 - ・ 高齢者の食事や栄養の改善を図るため、介護予防事業や栄養改善事業などで、食生活に関する普及啓発や保健指導を行いました。
- 関連団体
 - ・ 介護予防エクササイズの普及啓発を行いました。
 - ・ 市民公開講座やイベントなどで、栄養や運動に係る普及啓発を行いました。

<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、本県においても高齢化が進む中、介護保険サービスの利用者の増加が見込まれるため、高齢者の健康の保持・増進や要支援・要介護状態の予防に向けた取組みを進める必要があります。 ○ ロコモティブシンドロームの予防は、自立度を向上し、要介護状態になることを予防するために重要であり、その認知度を高めるよう普及啓発の取組みを強化する必要があります。 ○ 低栄養傾向の高齢者の項目は今回の評価では問題はありませんでしたが、今後、神奈川県の高齢社会がさらに進行すると、食生活支援が必要な人や摂食・嚥下障害を有する人の増加など、低栄養に影響する課題が予想されるため、若い世代からの適正な栄養・食生活対策を切れ目なく行うことが必要です。
--------------	--

【コラム】

「高齢者の栄養改善事業」

大和市では、平成25年度より「介護予防アンケート」で把握された、65歳以上で、BMI18.5未満かつ半年以内に体重減少が2kg以上あった方に対し、地域に暮らす高齢者の低栄養状態を改善し、介護予防・医療費低減を目的に、管理栄養士が個別訪問型の栄養相談を実施しています。

訪問栄養相談により、対象者の8割が体重維持・改善することができ、9割以上が重症化（要介護化、死亡）しませんでした。さらに医療費・介護給付費合わせて年間約5,100万円の社会保障費の削減効果があったと試算されました。

分野名	(2) 社会的な目標	
	ウ	健康を支え、守るための社会環境の整備 (2項目)
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分
	1 / 2 (50%)	B
総合的な評価	<p>Ⅱ 比較的順調に進捗している</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている県民の割合は、基準値 2.7%、直近実績値 2.9%であり、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 健康づくり事業等において、健康格差への対策を図っている市町村は、基準値 30 市町村、直近実績値 33 市町村であり、県内の全市町村が健康格差への対策を図っており、目標達成予測値を達成しました。 <p>【関連する取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 未病改善に役立つ総合的な情報や学習情報・スポーツ情報など、県民が健康づくりの実践に参考となる情報を提供しました。 ○ 食生活改善推進員、8020 運動推進員、未病サポーター、地域で健康づくりを支えるボランティアの育成を行いました。 ○ 未病センターの設置や公園への健康測定器具の設置など、県民が健康づくりに取り組みやすい環境整備を行いました。 	

【コラム】

「食生活改善推進員」

食生活改善推進員とは“私たちの健康は私たちの手で”を合言葉に、「ヘルスマイト」の愛称で食生活改善や健康づくりのボランティア活動を行う人たちです。

市町村が開催する養成講座等に参加し、家族の健康づくりにも役立つ食生活改善や健康づくりに関する内容を楽しく学べば、食生活改善推進員になることができます。その後は、仲間と一緒に研修会や講演会を通じて資質の向上に努めたり、料理教室や生活習慣病予防などの講座やイベント等にサポートとして参加し、地域における食生活改善や健康づくりの向上に貢献しています。



各 目 標 項 目 の 分 析	<p>① 健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている県民の割合の増加</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <table border="1"> <caption>健康や医療サービスに関連したボランティア活動をしている割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>25%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【分析】 達成状況 △</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基準値 (H23) は 2.7% で、直近実績値 (H28) は 2.9% である。 ○ H28 年の目標達成予測値 (12.9%) を達成していない。 </div> </div> <p>② 健康づくり事業等において、健康格差への対策を図っている市町村の増加</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <table border="1"> <caption>健康格差対策を図っている市町村</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>市町村数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【分析】 達成状況 ◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基準値 (H25) は 30 市町村で、直近実績値 (H28) は 33 市町村である。 ○ H28 年の目標達成予測値 (31 市町村) を達成している。 </div> </div>	年度	割合 (%)	H23	2.7	H28	2.9	目標	25%	年度	市町村数	H25	30	H28	33	目標	33
年度	割合 (%)																
H23	2.7																
H28	2.9																
目標	25%																
年度	市町村数																
H25	30																
H28	33																
目標	33																
関 連 し た 主 な 取 組 み	<p>○ 神奈川県</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の介護保険、人口動態統計などの健康指標について、定期的な情報収集・分析・提供を行いました。 ・ 県民が健康づくりに主体的に取り組んでいる状況や、地域の特徴を踏まえた健康対策の取組状況について、情報収集・提供を行いました。 ・ 歯及び口腔の健康づくりに主体的に取り組む 8020 運動推進員の養成と育成を行いました。 ・ 地域において「未病改善」に係る取組みの普及を図るため、「未病サポーター」の育成を行いました。 ・ 県民の未病改善の実践を支援するため、手軽に健康状態や体力等をチェックし、その結果に基づくアドバイスや未病改善に関する情報提供を受けられる「未病センター」の設置を促進しました。 ・ 企業・団体などに未病改善の普及啓発などに協力いただく「かながわ未病改善協力制度」を推進しました。 ・ 未病改善の実践に役立つ情報を総合的に提供するインターネットサイト「かながわ健康長寿ナビサイト」を開設しました。 																

<p>関連した主な取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習情報システムなどの活用により、学習情報・スポーツ情報を提供する環境を整備し、生涯学習情報システムでは、平成 28 年度に 33,923 件の情報を提供しました。 ・ 県民が気軽に健康測定を行えるよう、公園に健康測定器具を設置する取組みを行いました。 <p>○ 市町村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の生活習慣や地域の社会資源、健康状態や影響する要因等を加味した効果的な健康づくりが進められました。 ・ 家庭や地域で食生活改善活動を実践する食生活改善推進員（ヘルスマイト）を養成しました。 ・ 地域で健康づくりをサポートするボランティアの育成のための研修会を行いました。 <p>○ 関連団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県や市町村が行う健康づくり講演会等に対して、講師や指導者の派遣などの連携を行いました。 ・ 各種団体の連携による、講演会等の健康づくり事業を行いました。 ・ 研修会を開催し、健康づくりに従事する指導者を育成しました。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民が健康づくりに主体的に取り組んでいる状況を把握し、活動の場の支援や健康づくりに関する情報提供など、地域の健康づくりを進める社会環境の整備の推進が必要です。 ○ 健康指標の分析に基づき、地域の特徴を踏まえた健康格差対策の取組みを推進する必要があります。

【コラム】

「未病センター」

県では、県民が身近な場所で自らの身体の状態を把握し、未病改善を進めるきっかけづくりの場として、県内各地に未病センターの設置を進めています。

未病センターには、血圧や体組成、脳年齢、骨密度などの測定ができる機器があり、自分の未病の状態を知り、その結果に基づくアドバイスが受けられます。また、食や運動など未病改善に取り組むための参考となる情報を入手することもできます。

平成 27 年 6 月に第 1 号の未病センターが小田原市内に設置されて以降、市町村や民間事業者により計 29 箇所が設置され（平成 30 年 1 月末現在）、多くの方にご利用いただいています。



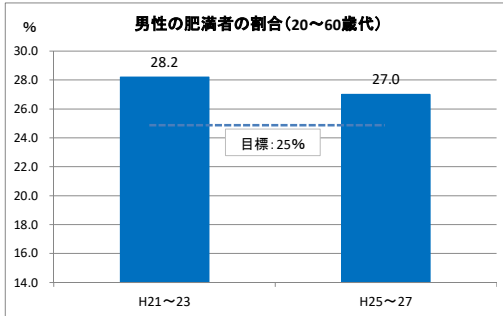
分野名	(2) 社会的な目標	
	エ	栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康づくり、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善の促進(未病を治す取組み) 栄養・食生活 (9項目)
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分
	3 / 9 (33%)	C
総合的な評価	<p>Ⅲ やや進捗が遅れている</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 男性 (20～60 歳代) の肥満者の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、平成 21～23 年に比べ見かけ上は 1.2 ポイント下がっています。 ○ 女性 (40～60 歳代) の肥満者や女性のやせの割合 (20 歳代) は、基準値と比較して差が見られず、肥満者の割合は 1.6 ポイント、やせの割合は 7.7 ポイント上がっています。 ○ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日がほぼ毎日の者の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、低い状態が続いています。 ○ 食塩一日摂取量が 8 g 未満の者の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 野菜一日摂取量が 350 g 以上の者の割合は、基準値と比較して直近実績値は高くなっていますが、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 果物一日摂取量が 100 g 未満の者の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる共食の回数は、基準値週 9 回、直近実績値週 10 回であり、目標達成予測値を達成しました。 ○ 栄養成分 (4 項目) を表示している特定給食施設の割合は、基準値と比較して直近実績値は高くなっており、目標達成予測値を達成しました。 <p>【関連する取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標項目である「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加」を目的として、「～そろえて食べてスマイルスリー～「主食・主菜・副菜をそろえた食事」」を共通テーマとし、全保健福祉事務所において、事業所と連携した健康づくりに取り組みました。 ○ 「かながわ食育フェスタ」の開催により、親子連れの方を中心とした、食育の普及啓発が進みました。 	

総体的な
評価

○ 食生活改善推進員による健康づくりに資する献立の作成や、料理教室の実施など、市町村、学校、関係機関、関係団体が、活発な地域活動を行いました。

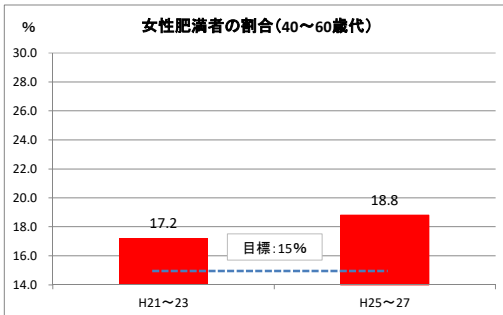
各
目
標
項
目
の
分
析

① 適正体重を維持している者の割合の増加



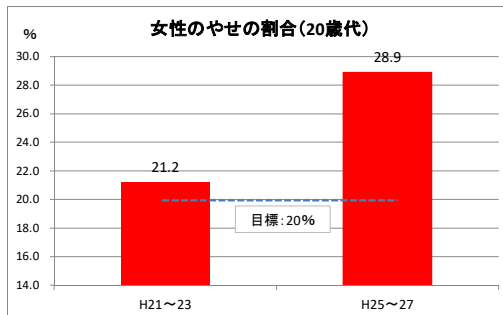
【分析】達成状況 ◎

- 男性の肥満者の割合は、基準値 (H21~23) 28.2%、直近実績値 (H25~27) 27.0%である。(有意差なし)
- H21~23年に比べ見かけ上1.2ポイント下がっている。



【分析】達成状況 ×

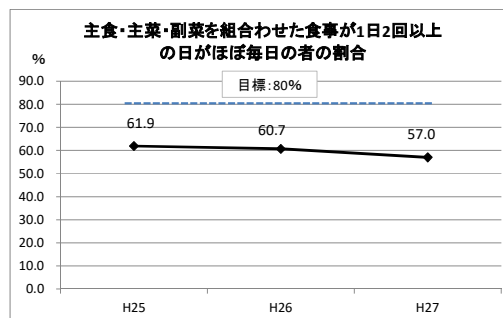
- 女性の肥満者の割合は、基準値 (H21~23) 17.2%、直近実績値 (H25~27) 18.8%である。(有意差なし)
- H21~23年に比べ見かけ上1.6ポイント上がっている。



【分析】達成状況 ×

- 女性のやせの割合は、基準値 (H21~23) 21.2%、直近実績値 (H25~27) 28.9%である。(有意差なし)
- H21~23年に比べ見かけ上7.7ポイント上がっている。

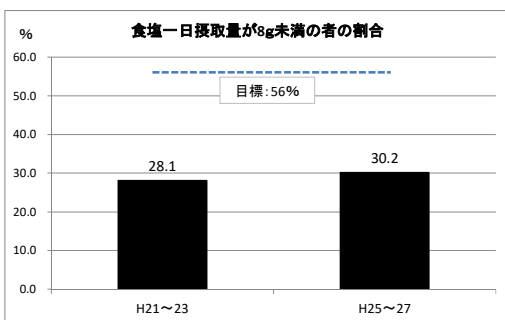
② 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加



【分析】達成状況 ×

- 基準値 (H25) 61.9%、直近実績値 (H27) 57.0%である。(有意差なし)
- 平成27年の目標達成予測値 (65.9%) を達成していない。

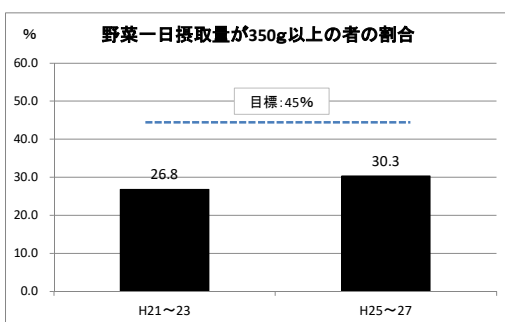
③ 食塩一日摂取量が8g未満の者の割合の増加



【分析】達成状況 △

- 基準値 (H21~23) 28.1%、直近実績値 (H25~27) 30.2%である。(有意差なし)
- H26年の目標達成予測値 (37.4%) を達成していない。

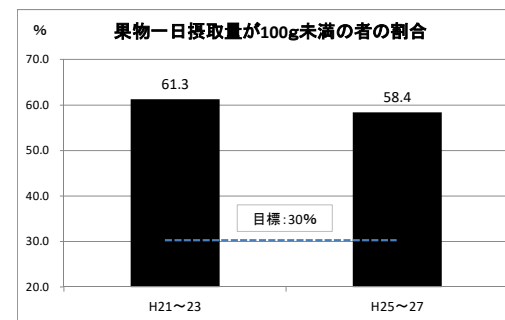
④ 野菜一日摂取量が350g以上の者の割合の増加



【分析】達成状況 △

- 基準値 (H21~23) 26.8%、直近実績値 (H25~27) 30.3%である。(有意差あり)
- H26年の目標達成予測値 (32.9%) を達成していない。

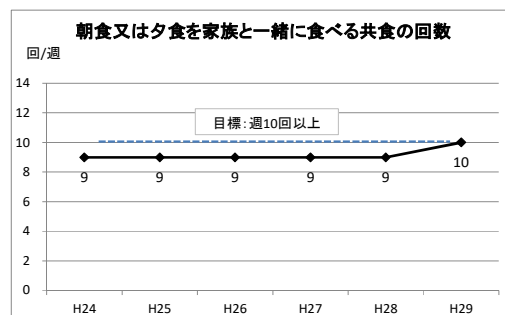
⑤ 果物一日摂取量が100g未満の者の割合の減少



【分析】達成状況 △

- 基準値 (H21~23) 61.3%、直近実績値 (H25~27) 58.4%である。(有意差なし)
- H26年の目標達成予測値 (50.9%) を達成していない。

⑥ 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる共食の回数の増加

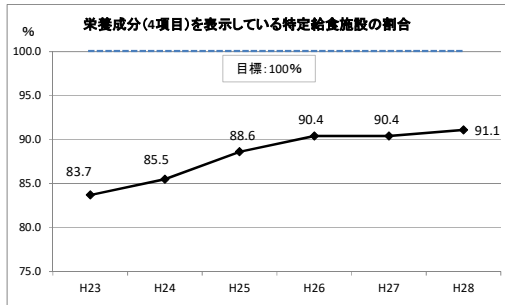


【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H24) は週9回、直近実績値 (H29) は週10回である。
- H29年の目標達成予測値 (週10回) を達成している。

各
目
標
項
目
の
分
析

⑦ 栄養成分(4項目)を表示している特定給食施設の割合の増加



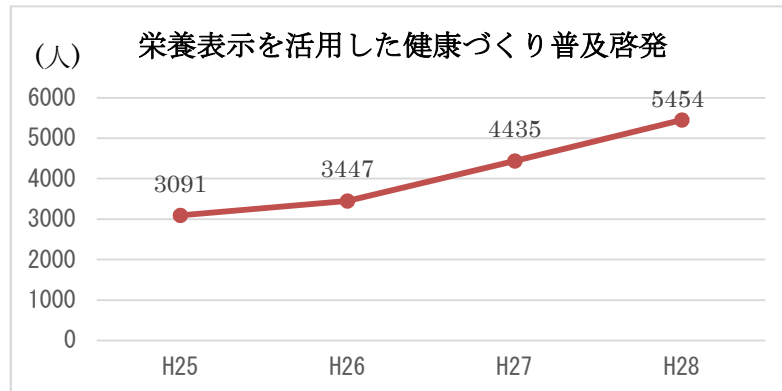
【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H23) は 83.7%、直近実績値 (H28) は 91.1% である (有意差あり)
- H 28 年の目標達成予測値 (91.1%) を達成している。

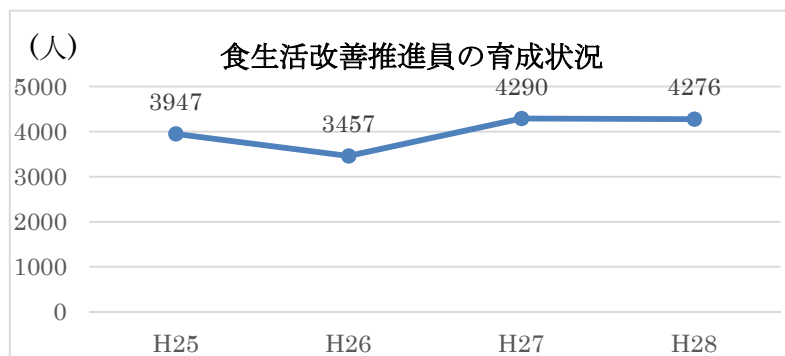
関
連
し
た
主
な
取
組
み

○ 神奈川県

- ・ 家族が食卓を囲んで共に食事を食べながら、コミュニケーションを図る共食を推進しました。
- ・ 適切な栄養・食生活を維持するために、栄養成分表示などについて、特定給食施設の管理者や県民に情報提供を行いました。



- ・ 「～そろえて食べてスマイルスリー～「主食・主菜・副菜をそろえた食事」」を共通のテーマに全保健福祉事務所が特定給食施設（事業所）と連携した健康づくりに取り組みました。
- ・ 特定給食施設の管理者や栄養士等を対象に研修会を開催し、人材育成を行いました。（平成28年度 37回開催 出席者 1,796人（1,509施設））
- ・ 地域の団体と連携した栄養・食生活活動を包括的に推進するために、食生活改善推進員の育成に取り組みました。



<p>関 連 し た 主 な 取 組 み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療、歯科医療、薬事、栄養、農業など各分野の有識者を構成員とする研究会の開催などにより、医食農同源の取組みや食の大切さ、開発したメニューの普及を行いました。（平成 28 年度医食農同源メニューを導入している給食施設数 70 施設） ・ 食育の理解や意識の向上を図るため、「かながわ食育フェスタ」を開催しました。（平成 29 年度 参加者数 4,250 人） ・ 若い世代が食生活の重要性について認識し、適正な食習慣を身につけられるよう、「若い世代向け料理教室」を開催しました。（平成 28 年度 2 回開催 参加者数 49 人） ・ 県内各地で「未病を改善する栄養サポートステーション」を開催し、管理栄養士による食事バランスチェックなどを行いました。（平成 29 年度計 85 回開催 参加者数 2,966 人） <p>○ 市町村</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児から高齢者まであらゆる年代に対し健診、健康講座等の機会を捉え、適切な栄養・食生活に関する情報提供・普及啓発を行いました。 ・ 健康フェスタなど健康に関するイベントや検診結果報告会などで、減塩食試食など体験を通じた啓発を行いました。 ・ 生活習慣病予防のための講話とともに簡単にできる料理を紹介、技術の習得も合わせた教室を開催しました。 ・ 忙しい働き盛りの世代を対象に、冷蔵庫の中にあるもので短時間でできる料理教室を開催しました。 ・ 小中学校において、栄養のバランスや規則正しい食生活、食品の安全性などについて、教科等の内容と関連させた講義を行いました。 <p>○ 関連団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活改善推進員による地域に根ざした食育、健康づくりに資する献立の作成や、料理教室、講習会等を行政、関係機関等と連携して行いました。 ・ 県栄養士会の栄養サポートステーション事業による栄養相談、講座・教室、在宅訪問を行いました。 ・ 地域の高齢者等へ食事サービス（配食・会食）を行っているボランティア団体を対象に支援事業を実施しました。 ・ 地域において開催される健康イベント等に参加し、適切な栄養・食生活に関する情報提供・普及啓発を行いました。
--	---

<p>今 後 の 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民健康・栄養調査の結果では、男性、女性とも 40～60 歳代で肥満者の割合が基準値を超えているので、この年代において特定健診・保健指導等の機会を通じた肥満改善に向けたアプローチが必要です。 ○ 一方、20 歳代女性のやせの割合が、依然として高く、県民健康・栄養調査の結果では、20 歳代男性も約 2 割やせている状況があることから、若年世代からの適正体重に向けた保健指導や普及啓発の取組みを強化する必要があります。 ○ 食生活においては、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事に関する状況は依然として悪く、特に 20～30 歳代では、これらを組み合わせた食事を食べている割合が 50%以下であること、食塩摂取量 8g 未満の者の割合及び野菜摂取量が 350 g 未満の割合では男女全ての年代で目標値に達していないことから、バランスのよい食事の普及や基本的な食習慣の確立について、学校や職域等と連携するなど、様々な機会を捉えた食生活に関する対策が必要です。 ○ 果物の一日摂取量 100 g 未満の者の割合は、男性が全ての年代で女性より多く、0 g の人が約 4 割を占める状況があり、果物を食べる習慣の定着を進める取組みが必要です。 ○ 特定給食施設における栄養成分表示は目標を達成しましたが、若年世代、働き盛り世代に栄養の課題が多いことから、さらに事業者と連携した健康づくり事業の充実が必要です。 ○ 加工食品への栄養成分表示が義務化されたことで、県民の健康づくりを支援する環境整備が進んでいますが、さらに県民への栄養成分表示を活用した健康づくりの普及啓発が必要です。 ○ 今後迎える神奈川県の高齢社会において、低栄養状態の高齢者が増加しないよう対策を進める必要があります。
----------------------------------	---

【コラム】

「清川村朝食キャンペーン」

清川村では、村民健康状況調査アンケートにおいて、「健康のために心がけていること」について「朝ごはんを毎日食べる」が第1位となりました。その結果から「清川村朝食キャンペーン」として、「早起き・朝食を食べよう」を推進しています。

家族と一緒に朝食の時間をもちやすい日曜日を「朝ごはんの日」（ブレイク 1 St サンデー）とし、宮ヶ瀬レイクサイドエフエムにおける「ラジオきよかわだよりのコーナー」で、村民の朝ごはんレシピや思い出、健康情報を放送しています。朝食を食べ、家族のコミュニケーションを深め健康づくりにつなげていくことを目指しています。

分野名	(2) 社会的な目標	
	工	身体活動・運動 (2項目)
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分
	1 / 8 (13%)	C
総合的な評価	<p>Ⅲ やや進捗が遅れている</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 20～59 歳の日常生活における歩数は、男女ともに基準値と比較して直近実績値は少なくなっており、基準値より悪化しました。 ○ 60 歳以上の女性の日常生活における歩数は、基準値と比較して直近実績値は多くなっており、目標達成予測値を達成しました。60 歳以上の男性の歩数は差が見られず、平成 21～23 年に比べ 90 歩減少しています。 ○ 20～59 歳の成人の運動習慣者の割合は、男女ともに基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成できませんでした。 ○ 60 歳以上の成人の運動習慣者の割合は、男女ともに基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成しませんでした。 <p>【関連する取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広く県民の身体活動や運動の習慣化を図るため、企業と連携した 3033 運動の推進やウォーキングイベントの開催、正しい体操を習得するための講習会の開催などを行いました。 	

【コラム】

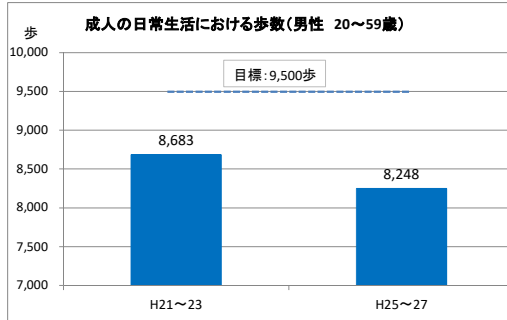
「3033 (サンマルサンサン) 運動」

3033 (サンマルサンサン) 運動とは県民の皆さんが一人でも多くスポーツに親しみ、健康で明るく豊かな生活を営んでいただくために、1日30分、週3回、3ヶ月間継続して運動やスポーツを行い、運動やスポーツをくらしの一部として習慣化する取組みを推進しています。



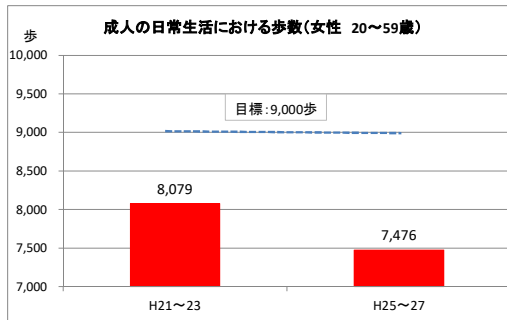
① 成人の日常生活における歩数の増加

ア 20～59 歳(男性・女性)



【分析】 達成状況 ×

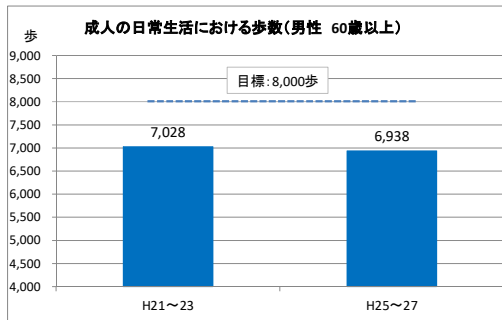
- 20～59 歳の男性について、基準値 (H21～23) は 8,683 歩、直近実績値 (H25～27) は 8,248 歩である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 8,955 歩を達成していない。



【分析】 達成状況 ×

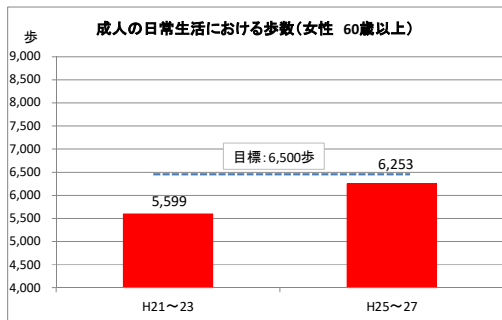
- 20～59 歳の女性について、基準値 (H21～23) は 8,079 歩、直近実績値 (H25～27) は 7,476 歩である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 8,386 歩を達成していない。

イ 60 歳以上(男性・女性)



【分析】 達成状況 ×

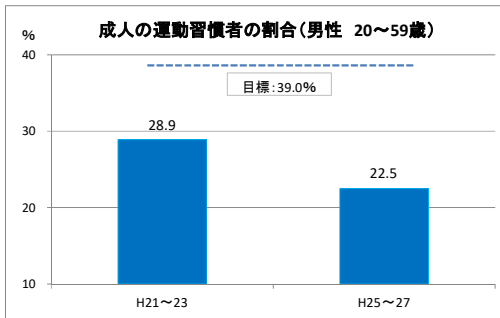
- 60 歳以上の男性について、基準値 (H21～23) は 7,028 歩、直近実績値 (H25～27) は 6,938 歩である。(有意差なし)
- H21～23 年に比べ 90 歩減少している。



【分析】 達成状況 ◎

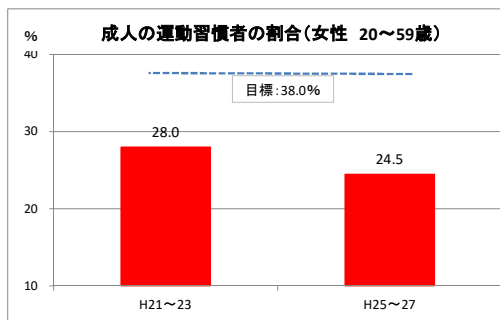
- 60 歳以上の女性について、基準値 (H21～23) は 5,599 歩、直近実績値 (H25～27) は 6,253 歩である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 5,899 歩を達成している。

② 成人の運動習慣者(1回30分、週2回以上の運動を1年以上継続している者)の割合の増加
ア 20～59歳(男性・女性)



【分析】 達成状況 ×

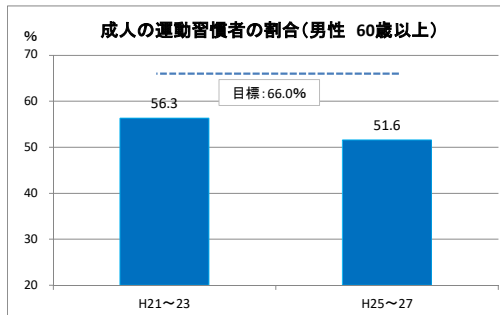
- 20～59歳の男性について、基準値(H21～23)は28.9%、直近実績値(H25～27)は22.5%である。(有意差なし)
- H26年の目標達成予測値32.3%を達成していない。



【分析】 達成状況 ×

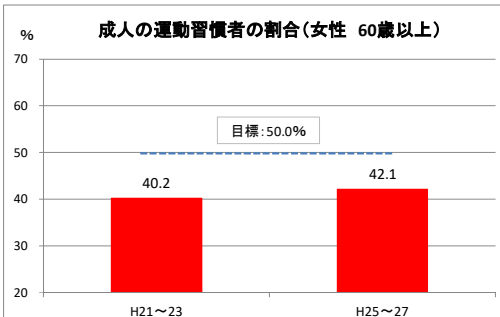
- 20～59歳の女性について、基準値(H21～23)は28.0%、直近実績値(H25～27)は24.5%である。(有意差なし)
- H26年の目標達成予測値31.3%を達成していない。

イ 60歳以上(男性・女性)



【分析】 達成状況 ×

- 60歳以上の男性について、基準値(H21～23)は56.3%、直近実績値(H25～27)は51.6%である。(有意差なし)
- H26年の目標達成予測値59.5%を達成していない。



【分析】 達成状況 △

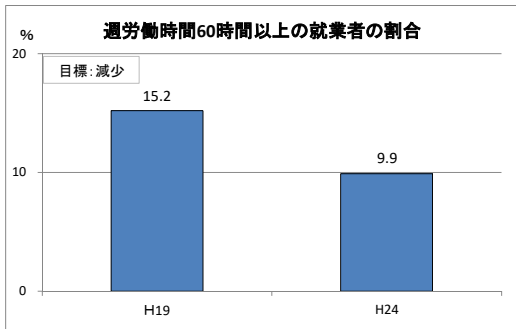
- 60歳以上の女性について、基準値(H21～23)は40.2%、直近実績値(H25～27)は42.1%である。(有意差なし)
- H26年の目標達成予測値43.5%を達成していない。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関連した主な取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神奈川県 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村や企業と連携し、運動プログラムのリーフレット配布や、簡単にできる体操の紹介などを通じて、3033 運動の普及・啓発に取り組みました。 また、様々なメディアを通じて 3033 運動についての情報を発信し、3033 運動の周知を図りました。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">総合型地域スポーツクラブ関連事業実施結果 (平成 28 年度県民スポーツ週間関連事業より) スポーツクラブ等 14 団体 実施イベント数 44 参加者合計 2,975 人</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が一人でも多くスポーツに親しむことができるよう、企業やNPOと連携し、段階のぼりイベントや県内各地でのウォーキングイベントなどを実施し、3033 運動の実践を推進しました。 ○ 市町村 <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの習慣化や地域住民の健康づくりを目的としたスポーツ教室やレクリエーションスポーツの体験会を開催しました。 ・ 自発的に体操に取り組んでいる方に対し、効果的な体操方法を習得する機会を提供するため、講習会を開催しました。 ・ 未病改善の意識を高めるとともに、地域住民の健康・体力づくりを促進するためチャレンジデーに参加しました。 ○ 関連団体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立都市公園において、健康づくりに資する体験教室等を実施しました。 ・ 「県民スポーツ週間」関連事業としてスポーツイベント等を開催しました。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県の「県民の体力・スポーツに関する調査」によると、30、40 歳代のスポーツ実施率が低い状況にあることと、若年層での低下が見られることから、働く世代の方が、身近な場所で自分の都合に合わせて体を動かすことができる環境づくりを行う必要があります。 ○ 生活習慣病予防のため、生活に根付いた身体活動や運動の必要性について、一層、普及を図る必要があります。

分野名	(2) 社会的な目標												
	工	休養・こころの健康づくり (2項目)											
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分											
	2 / 2 (100%) * 判定不能な細目標項目は除く	A											
総体的な評価	I 順調に進捗している												
	<p>【数値目標】</p> <p>○ 目覚めた時に疲労感が残る者の割合は、男女ともに基準値と比較して直近実績値は低くなっており、目標達成予測値を達成しました。</p> <p>【関連する取組み】</p> <p>○ 広く県民に対して、睡眠・休養等のこころの健康づくりに関する講演会や相談、普及啓発などを行いました。</p> <p>○ 企業に対して労働者の心身の健康の確保のため働く人のメンタルヘルス研修会や睡眠と生活習慣病予防に関する健康教育などを行いました。</p>												
各目標項目の分析	① 目覚めた時に疲労感が残る者の割合の減少												
	<p>目覚めた時に疲労感が残る者の割合(男性)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21~23</td> <td>23.9</td> </tr> <tr> <td>H25~27</td> <td>18.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>目標: 20.0%以下</p> <p>目覚めた時に疲労感が残る者の割合(女性)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21~23</td> <td>23.3</td> </tr> <tr> <td>H25~27</td> <td>15.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>目標: 20.0%以下</p>	期間	割合 (%)	H21~23	23.9	H25~27	18.3	期間	割合 (%)	H21~23	23.3	H25~27	15.1
期間	割合 (%)												
H21~23	23.9												
H25~27	18.3												
期間	割合 (%)												
H21~23	23.3												
H25~27	15.1												
		<p>【分析】達成状況 ◎</p> <p>○ 基準値 (H21~23) は 23.3%で、直近実績値 (H25~27) は 15.1%である。(有意差あり)</p> <p>○ H26年の目標達成予測値 (22.2%) を達成している。</p>											

各
目
標
項
目
の
分
析

② 週労働時間 60 時間以上の就業者の割合の減少



【分析】達成状況 —

- 基準値 (H19) は 15.2%で、直近実績値 (H24) は 9.9%である。
- H29 の統計値は、まだ公表されていないため、計画期間中の直近実績値はない。

関
連
し
た
主
な
取
組
み

○ 神奈川県

- ・ 睡眠は身体や精神の健康等と密接に関連しているため、睡眠等の休養の必要性について、普及啓発しました。
- ・ 労働者の心身の健康の確保のため、企業経営者、管理職、人事担当者等を対象とした啓発を実施しました。

ワーク・ライフ・バランス企業担当者交流会参加人数実績

	年間実施回数	年間延べ人数
平成 25 年度	3	78
平成 26 年度	3	64
平成 27 年度	7	134
平成 28 年度	7	345

- ・ 地域と職域が連携し、企業に対し働く人のメンタルヘルス研修会や睡眠、休養と生活習慣病予防の健康教育などを行いました。

○ 市町村

- ・ 「睡眠」をテーマにした、健康づくりのための講座を開催しました。
- ・ 働く世代の健康づくりのため、疲労度やストレス状態の自己チェック票の配布、相談を実施しました。

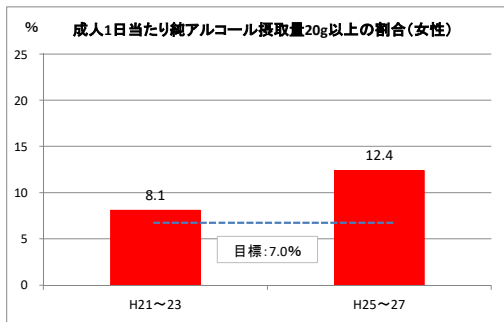
○ 関連団体

- ・ 市町村や団体が開催するイベントにおいて、健康相談を行いました。
- ・ 健康づくりに資する講演会を開催し普及啓発を行いました。

今
後
の
課
題

- 今後も引き続き、睡眠を含む休養やこころの健康づくりについて、普及啓発等の取組みを進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進等により、労働者の心身の健康の確保を図る必要があります。

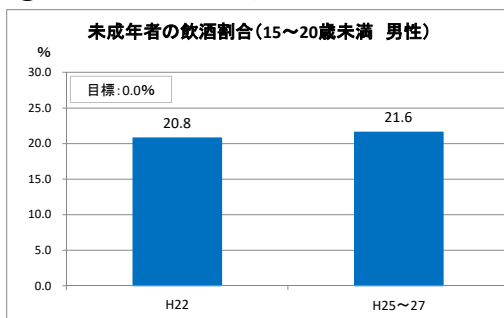
分野名	(2) 社会的な目標								
	工	飲酒 (3項目)							
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分							
	2／5 (40%)	C							
総合的な評価	Ⅲ やや進捗が遅れている 【数値目標】 ○ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、基準値と比較して直近実績値は、男性では差が見られませんでした。目標達成予測値を達成しました。女性は逆に基準値より高くなっており、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 未成年者の飲酒割合は、男性は基準値 20.8%、直近実績値 21.6%、女性は基準値 15.8%、直近実績値 25.6%であり、目標の0%に届く状態にはありません。 ○ 妊娠中に飲酒している者の割合は、基準値 4.5%、直近実績値 2.6%であり、見かけ上減少を示していますが、目標値の0%に届く状態ではありません。								
	【関連する取組み】 ○ 未成年者に対して、関連団体と連携し、イベントや講演会を通じて飲酒防止の周知を図りました。 ○ 妊婦や成人に対しては、母子保健事業や特定保健指導等を通じて、飲酒に伴う健康への影響に関する知識の普及や保健指導を行いました。 ○ 酒類販売店への立入調査を実施し、青少年喫煙飲酒防止条例に基づく取組みの徹底を図りました。								
各目標項目の分析	① 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少								
	<p>成人1日当たり純アルコール摂取量40g以上の割合(男性)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21~23</td> <td>17.7</td> </tr> <tr> <td>H25~27</td> <td>15.4</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>15.0</td> </tr> </tbody> </table>	期間	割合 (%)	H21~23	17.7	H25~27	15.4	目標	15.0
期間	割合 (%)								
H21~23	17.7								
H25~27	15.4								
目標	15.0								



【分析】達成状況 ×

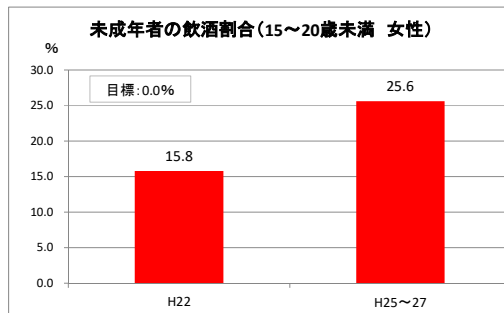
- 基準値 (H21~23) は 8.1% で直近実績値 (H25~27) は 12.4% である。(有意差あり)
- H26 年の目標達成予測値 (7.7%) を達成していない。

② 未成年者の飲酒をなくす



【分析】達成状況 ×

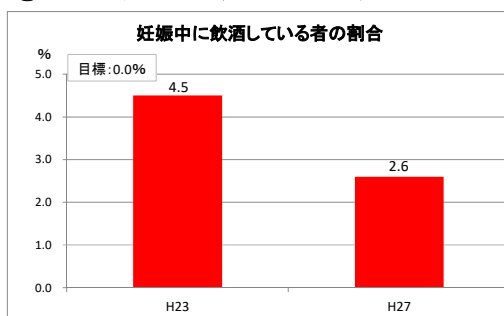
- 基準値 (H22) は 20.8% で直近実績値 (H25~27) は 21.6% である。
- H26 年の目標達成予測値 (13.9%) を達成していない。



【分析】達成状況 ×

- 基準値 (H22) は 15.8% で直近実績値 (H25~27) は 25.6% である。
- H26 年の目標達成予測値 (10.5%) を達成していない。

③ 妊娠中の飲酒をなくす



【分析】達成状況 ◎

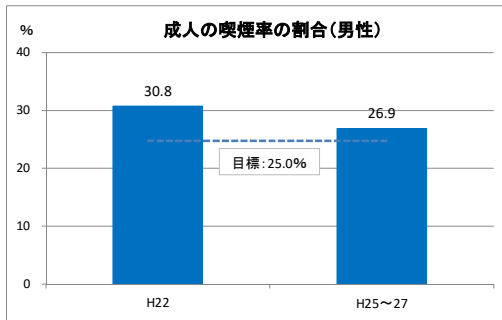
- 基準値 (H23) は 4.5% で直近実績値 (H27) は 2.6% である。
- H27 年の目標達成予測値 (2.9%) を達成している。

* H23 は 33 市町村中 11 市町村の状況、H27 は 33 市町村中 19 市町村の状況

<p>関 連 し た 主 な 取 組 み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神奈川県 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未成年者へのお酒の販売防止についてポスターやスイングPOPを作成し、関係業界団体を通じて酒類販売店、飲食店等に配布しました。また、啓発物品を作成し、イベント等で配布することにより、周知啓発活動を行いました。 ・ 条例に基づく取組みの徹底を図るため、酒類販売店等に立入調査を実施し、未成年者への販売などがなく、必要な改善指導を行いました。 ・ 若年者等を対象に酒害予防に関する講演会を実施するとともに、アルコールについてのリーフレット（一般向け・女性向け）を作成し配布を行いました。 ・ アルコールに関する健康相談を行いました。 ・ 成人に対し、飲酒と生活習慣病の関連について普及や保健指導を行いました。 ○ 市町村 <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊婦健康相談の中で、お酒の健康に及ぼす影響についてのパンフレットの配布等を行いました。 ・ 街頭でのパトロールや啓発活動を通じて、未成年者の飲酒の禁止の呼びかけを行いました。 ・ 特定保健指導対象者のうち多量飲酒者に対して減酒支援を行いました。 ○ 関連団体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民公開講座や、イベントなどの場で、アルコールによる健康障害や適量飲酒について普及啓発を行いました。
<p>今 後 の 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女性や未成年者に対して、アルコールによる自身の健康や胎児に及ぼす影響等について、さまざまな機会を捉え積極的に普及啓発する必要があります。 ○ 未成年者の飲酒防止について、引き続き関係業界団体等とも連携し、周知徹底を図っていく必要があります。 ○ 今後、「神奈川県アルコール健康障害対策推進計画」に基づいた取組みを推進する必要があります。

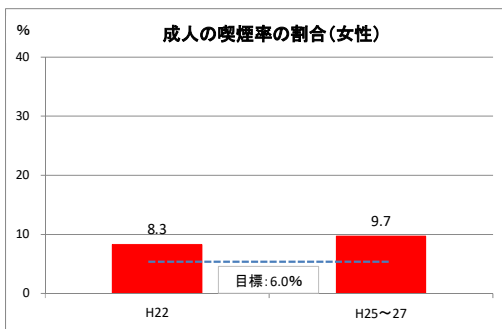
分野名	(2) 社会的な目標	
	工	喫煙（4項目）
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数（％）	評価区分
	2 / 6 （ 33% ）	C
総合的な評価	<p>Ⅱ 比較的順調に進捗している</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 男性の成人の喫煙率は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、平成 22 年に比べ、見かけ上は 3.9 ポイント下がっています。 ○ 女性の成人の喫煙率は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、平成 22 年に比べ、見かけ上は 1.4 ポイント上がっています。 ○ 未成年者の喫煙の割合は、男性は基準値 8.3%、直近実績値 5.4%、女性は基準値 5.3%、直近実績値 2.6%であり、男女ともに目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 妊娠中の喫煙の割合は、基準値 3.5%、直近実績値は 2.9%であり、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 公共的施設での受動喫煙に遭遇する機会を減らす目標については、受動喫煙防止条例が着実に施行されていることから、また、職場や家庭での受動喫煙に遭遇する機会を減らす目標についても、受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発を着実に進めていることから、目標を達成しました。 <p>【関連する取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広く県民に対し、キャンペーンなどを通じて、たばこの健康への悪影響や受動喫煙防止について普及啓発などを行いました。 ○ 特に未成年や妊婦に対しては、関係機関との連携により、喫煙防止教育や保健指導を行いました。 	

① 成人の喫煙率の減少



【分析】 達成状況 ◎

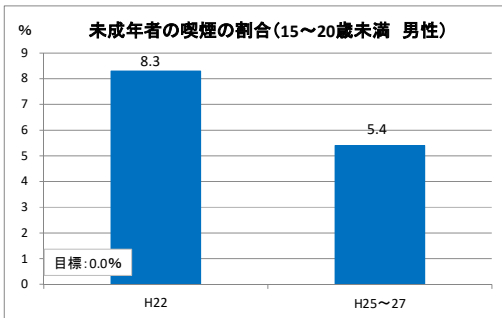
- 基準値 (H22) 30.8%で、直近実績値 (H25~27) は 26.9% である。(有意差なし)
- H22年に比べ見かけ上 3.9ポイント下がっている。



【分析】 達成状況 ×

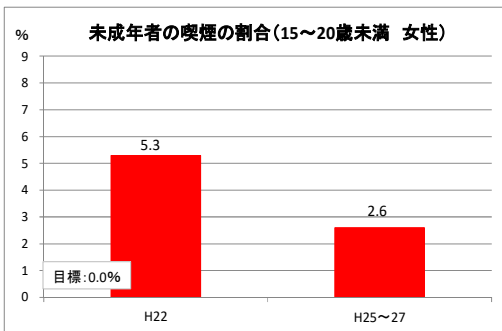
- 基準値 (H22) 8.3%、直近実績値 (H25~27) は 9.7% である。(有意差なし)
- H22年に比べ見かけ上 1.4ポイント上がっている。

② 未成年者の喫煙をなくす



【分析】 達成状況 △

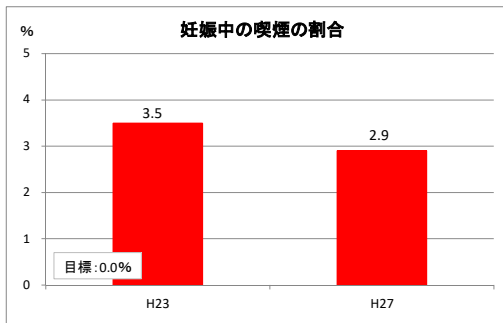
- 基準値 (H22) 8.3%、直近実績値 (H25~27) は 5.4% である。
- H26年の目標達成予測値 (3.5%) を達成していない。



【分析】 達成状況 △

- 基準値 (H22) 5.3%、直近実績値 (H25~27) は 2.6% である。
- H26年の目標達成予測値 (2.3%) を達成していない。

③ 妊娠中の喫煙をなくす



【分析】 達成状況 △

- 基準値（H23）3.5%、直近実績値（H27）は2.9%である。
- H27年の目標達成予測値（2.2%）を達成していない。

各
目
標
項
目
の
分
析

* H23 は 33 市町村中 23 市町村の状況、H27 は 33 市町村中 25 市町村の状況

④ 神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例の適切な施行により、公共的施設での受動喫煙に遭遇する機会を減らす。
受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発を進め、職場や家庭での遭遇機会を減らす。

【分析】 達成状況 ◎

公共的施設に職員が戸別に訪問し、施設管理者に対し、条例の趣旨等を説明するとともに「禁煙」の措置や表示等に不備があれば改善を指導した。

また、分煙設備の導入等を検討する施設管理者に対しては、分煙技術アドバイザー等が相談に応じ、分煙設備導入資金に係る利子の補給により、受動喫煙を未然に防止する環境整備が一層促進され、公共的施設などにおいて受動喫煙に遭遇する機会は減少している。

関
連
し
た
主
な
取
組
み

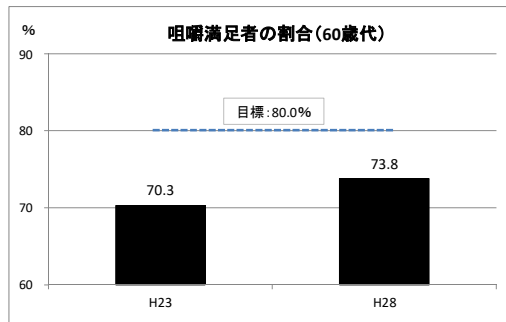
○ 神奈川県

- ・ キャンペーンや県民向けイベントなどを行い、たばこの害や受動喫煙防止について広く普及啓発しました。
- ・ 未成年者の喫煙防止のため、県内全ての小学校6年生及び中高大学生向けに喫煙防止啓発用リーフレットを配布しました。
- ・ 学校等で開催される喫煙防止教育に講師を派遣するとともに、卒煙（禁煙）サポートとして禁煙相談や地域で禁煙しやすい環境づくりを進めるために関係機関との会議や研修会などを開催しました。
- ・ 「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」に適合する分煙設備等を整備しようとする従業員数30人（卸売業・小売業・サービス業の場合10人）以下の中小企業者への金融支援を行いました。
「分煙設備等整備融資」の融資実績 平成28年度1件
- ・ 未成年へのたばこの販売防止についてポスターやスイングPOPを作成し、関係業界団体を通じてたばこ販売店、飲食店等に配布しました。また、啓発物品を作成し、イベント等で配布することにより、周知啓発活動を行いました。
- ・ 条例に基づく取組みの徹底を図るため、たばこ販売店等に立入調査を実

<p>関 連 し た 主 な 取 組 み</p>	<p>施し、未成年への販売などがなく、必要な改善指導を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村 <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント等において、禁煙に関する普及啓発や禁煙相談を行いました。 ・ 小中学校において、たばこの健康への悪影響の普及啓発や喫煙防止についての教育を実施しました。 ・ 妊娠中の喫煙は胎児の発育に影響し、出産後の赤ちゃんの健康にも影響する可能性があるため、妊娠中の喫煙及び出産後の再喫煙をなくすよう啓発や保健指導を行いました。 ○ 関連団体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒煙（禁煙）サポートの充実を目指し、（公財）かながわ健康財団が、県との共催で、禁煙希望者とその家族等を対象に「かながわ卒煙塾」を開催しました。 ・ 禁煙講習会や教室などにおいて、講師を派遣しました。
<p>今 後 の 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙をしている成人女性の割合が依然として高いことから、たばこによる健康への悪影響の普及啓発や卒煙（禁煙）サポートの推進など喫煙率低下に向けた取組みを進める必要があります。 ○ 未成年者の喫煙は、早期の喫煙開始により喫煙年数が長くなったり、やめにくくなり、がんや虚血性心疾患などのリスクが高まるため、引き続き関係業界団体等とも連携し、販売業者や購入者に対して啓発ポスターの掲示やリーフレットを配布するなど喫煙防止について周知徹底を図っていく必要があります。 ○ 妊婦の喫煙により、胎児の発育が制限されたり、低出生体重の原因となることがあったり、また、産婦の喫煙により、乳幼児が喘息などの病気にかかりやすくなることから、妊産婦とその家族等を対象に乳幼児へのたばこの健康への悪影響などの普及啓発をさらに推進する必要があります。 ○ 受動喫煙防止条例の着実な施行により、公共的施設などで受動喫煙に遭遇する機会は減少しているが、さらなる減少を目指し、受動喫煙防止対策を進めていく必要があります。

分野名	(2) 社会的な目標	
	工	歯・口腔の健康 (10 項目)
目標達成状況	細目標達成項目数 ／細目標項目数 (%)	評価区分
	5 / 8 (63%) * 判定不能な細目標項目を除く	B
総合的な評価	<p>Ⅱ 比較的順調に進捗している</p> <p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 60 歳代における咀嚼満足者の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成しませんでした。 ○ 80 歳 (75～84 歳) で 20 本以上の自分の歯を有する者の割合は、基準値 34.6%、直近値は 44.7%であり、目標達成予測値を達成しました。 ○ 60 歳 (55～64 歳) で 24 本以上の自分の歯を有する者の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られず、目標達成予測値を達成できていません。 ○ 40 歳で喪失歯のない者の割合は、基準値と比較して直近実績値は高くなっており、目標達成予測値を達成しました。 ○ 20 歳代における歯肉に異常所見のない者の割合は、基準値と比較して直近実績値は差が見られませんでした。目標達成予測値を達成しました。 ○ 成人・高齢期の歯周病を有する者の割合は検査方法の改定により分析不能でした。 ○ 3 歳児でむし歯がない者の割合が 80%以上である市町村数は、基準値 18 市町村、直近実績値 29 市町村で、目標達成予測値を達成しました。 ○ 12 歳児の一人平均むし歯数が 1.0 本未満である圏域^{注1}数は、基準値 5 圏域、直近実績値 6 圏域であり、目標達成予測値を達成しました。 *注1：圏域とは、保健医療計画における二次医療圏のうち、横浜市及び川崎市を各 1 医療圏とする全 8 圏域を指しています。 ○ 過去 1 年間に歯科検診を受診した者の割合は、基準値と比較して直近実績値は有意に高くなっていますが、目標達成予測値は達成できませんでした。 <p>【関連する取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関及び関係団体と連携し、ライフステージに応じた歯及び口腔の健康づくりを推進しました。特に、高齢者の口腔機能の虚弱化（オーラルフレイル）対策のため、予防改善プログラムの確立や普及啓発を行いました。 ○ 8020 運動推進員を養成し「健口体操」の普及活動等、地域で活躍するための支援を実施しました。 	

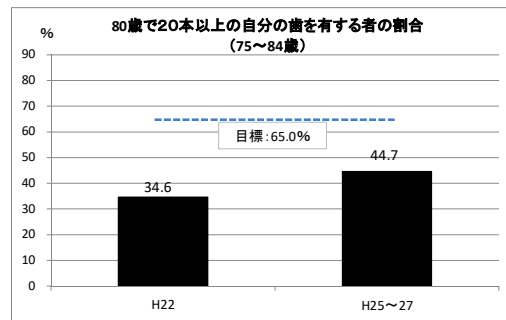
① 60歳代における咀嚼満足者の割合の増加



【分析】達成状況 △

- 基準値 (H23) は 70.3%、直近実績値 (H28) は 73.8%である。(有意差なし)
- H28 年の目標達成予測値 (74.7%) を達成していない。

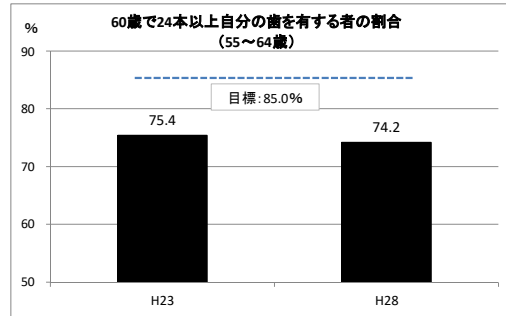
② 80歳(75~84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加



【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H22) は 34.6%、直近実績値 (H25~27) は 44.7%である。
- H26 年の目標達成予測値 (44.7%) を達成している。

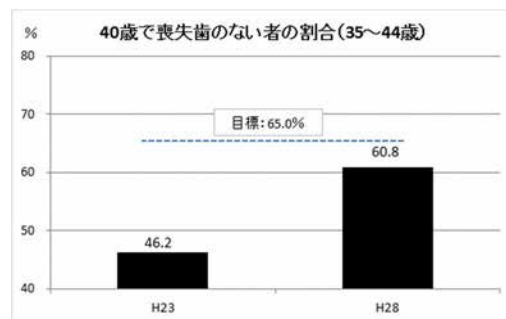
③ 60歳(55~64歳)で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加



【分析】達成状況 ×

- 基準値 (H23) は 75.4%、直近実績値 (H28) は 74.2%である。(有意差なし)
- H28 年の目標達成予測値 (79.8%) を達成していない。

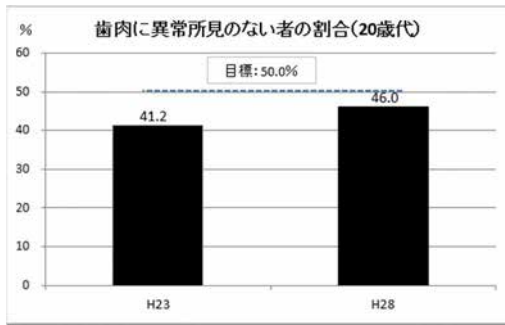
④ 40歳(35~44歳)で喪失歯のない者の割合の増加



【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H23) は 46.2%、直近実績値 (H28) は 60.8%である。(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (54.8%) を達成している。

⑤ 20 歳代における歯肉に異常所見のない者の割合の増加



【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H23) は 41.2%、直近実績値 (H28) は 46.0%である。
(有意差なし)
- H28 年の目標達成予測値 (45.2%) を達成している。

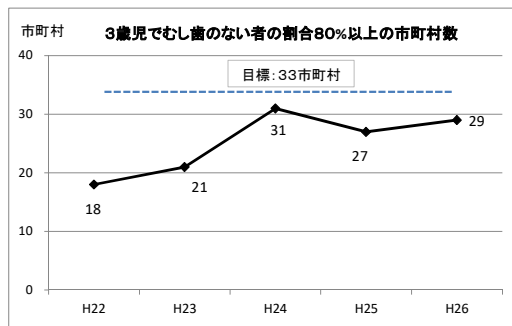
⑥ 40 歳代における進行した歯周病を有する者の割合の減少

- 検査方法が改定され直近実績値が得られないため分析不能

⑦ 60 歳代における進行した歯周病を有する者の割合の減少

- 検査方法が改定され直近実績値が得られないため分析不能

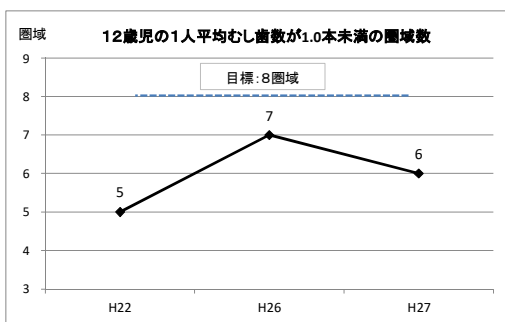
⑧ 3 歳児でむし歯がない者の割合が 80%以上である市町村の増加



【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H22) は 18 市町村、直近実績値 (H26) は 29 市町村である。
- H26 年の目標達成予測値 (23 市町村) を達成している。

⑨ 12 歳児の一人平均むし歯数が 1.0 本未満である圏域の増加

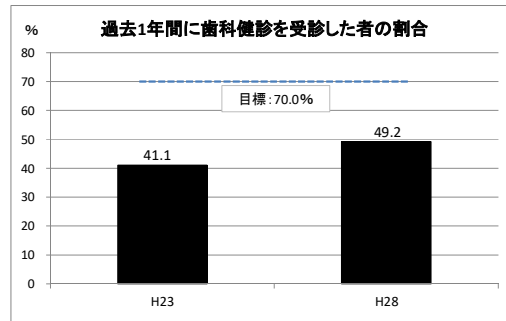


【分析】達成状況 ◎

- 基準値 (H22) 5 圏域、直近実績値 (H27) は 6 圏域である。
- H27 年の目標達成予測値 (6 圏域) を達成している。

各
目
標
項
目
の
分
析

⑩ 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加



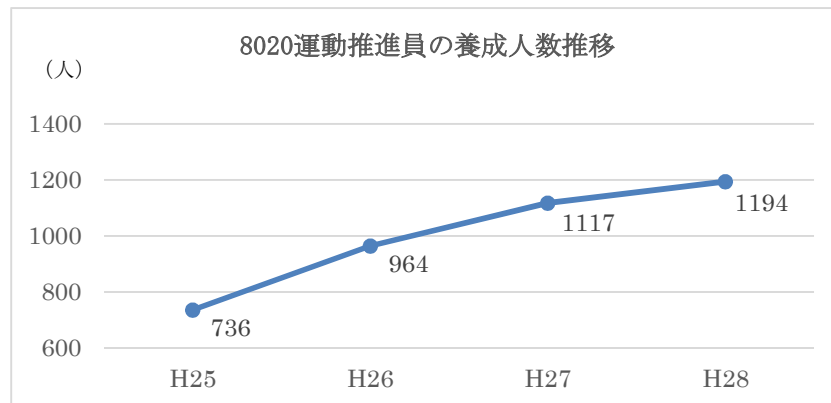
【分析】達成状況 △

- 基準値 (H23) 41.1%、直近実績値 (H28) は 49.2%である。
(有意差あり)
- H28 年の目標達成予測値 (54.3%) を達成していない。

関
連
し
た
主
な
取
組
み

○ 神奈川県

- ・ 乳幼児・児童に対し、むし歯多発傾向児への早期対応や、むし歯や歯肉炎の予防に関する情報提供（フッ化物応用やむし歯のリスク等）、よく噛むことへの支援として「噛ミング30（かみんぐさんまる）」を普及しました。
- ・ 成人に対し、歯周病検診、歯間清掃用具の普及、歯及び口腔の健康が全身の健康に与える重要な役割についての情報提供、出前講座等による職域での健康教育等を通し、歯及び口腔の健康づくりを推進しました。
- ・ 高齢者に対し、口腔機能の虚弱化（オーラルフレイル）対策のため、予防改善プログラムの確立や、普及啓発を行いました。
- ・ 歯及び口腔の健康づくりを推進する県民のボランティアである 8020（はちまるにいまる）運動推進員を養成・育成し、8020 運動推進員による健口体操の普及等の活動を通し、県民主体の歯及び口腔の健康づくりに取り組みました。



- ・ 関係機関・団体と連携して、イベント等の場で「健口かながわ5か条」の普及を行い、歯及び口腔の健康づくりを推進しました。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関連した主な取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒が主体的にむし歯や歯肉炎予防に取り組む力を高めるため、歯と歯肉の自己観察の方法などの普及啓発を学校等で行いました。 ・ 歯科相談や歯磨き指導、特定の年齢の方を対象にした歯周病検診を市町村保健センターなどで実施しました。 ・ 8020 運動推進員が地域で活躍するための支援を実施しました。 ・ イベント等で、関連団体と協力し、住民の歯及び口腔に関する健康づくりに関する情報提供に努めました。 ○ 関連団体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科保健情報誌を発行し、歯及び口腔の健康づくりに係る普及啓発を行いました。 ・ イベント会場で歯科検診を行うなど、歯科検診の重要性の普及を図りました。 ・ ブラッシング等の相談指導や、特定の年齢の方を対象にした歯周病検診を実施しました。 ・ 地域において、歯と口腔の健康づくりを推進するボランティアである 8020 運動推進員と協働して、県民運動と連携した普及啓発を行いました。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民の生涯にわたる歯及び口腔の健康づくりを推進するために、今後も継続してライフステージに応じた課題に取り組む必要があります。 <p>【乳幼児期と学齢期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ むし歯と歯肉炎の予防並びによく噛んで食べることの習慣化 <p>【成人期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切なお口のセルフケアとプロフェッショナルケア ・ 口腔の健康と全身の健康との強い関係性についての知識の普及 <p>【高齢期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の虚弱予防を図るため、オーラルフレイル対策の取り組み ・ 県民参加の歯及び口腔の健康づくりへの取り組み

【コラム】

オーラルフレイル（ささいな口の機能の衰え）を知っていますか？

健康と要介護の間には、筋力や心身の活力が低下する「フレイル」と呼ばれる段階があり、その手前で、“オーラルフレイル”の症状は現れます。食事でよく食べこぼすようになった、固いものが噛めなくなった、むせることも増えた、さらに滑舌も悪くなったなど、こうした状態が続くようであれば、それはささいな口の機能の衰え、“オーラルフレイル”の可能性もあります。フレイルから続く要介護状態に陥ることなく、健やかで自立した暮らしを長く保つためには、オーラルフレイルに早く気づき、予防や改善に努力することが重要です。



3 関係団体の取組みに対する評価

平成28年度「かながわ健康プラン21（第2次）」推進に係る取組事業調査結果（参考）

- 調査時期：平成29年6月
- 調査対象：県機関、市町村、かながわ健康プラン推進会議の構成機関 計88機関
- 調査内容：平成28年度「かながわ健康プラン21（第2次）」に関連する事業実績及びその自己評価
- 結果の概要
 - ・ 事業の分野別実績をみると、全体目標の「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が最も多く、次いで社会的目標の「身体活動・運動」、「主な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」、「栄養・食生活」の順となっています。
 - ・ 事業に対する各機関の自己評価結果は、県機関、市町村、推進会議の構成機関の全てが、「よくできた」とする事業が最も多く、次いで「だいたいできた」とする事業の順となっています。
 - ・ 平成25年度からの経年の事業数の推移をみると、ほとんどの分野で事業数が年々増加しています。

平成28年度「かながわ健康プラン21（第2次）」に係る目標分野別取組事業数

該当分野		事業数	
取組事業数（実件数）		1,485	
取組事業数(延件数)		5,576	
取組事業数（延件数）内訳	全体目標	健康寿命の延伸と健康格差の縮小	762
	社会的目標	主な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	663
		こころの健康	350
		次世代の健康	554
		高齢者の健康	495
		健康を支え、守るための社会環境の整備	284
		栄養・食生活	598
		身体活動・運動	668
		休養・こころの健康づくり	456
		飲酒	156
		喫煙	271
		歯・口腔の健康	319

※1つの事業が複数の分野に該当している場合があります。

平成 28 年度「かながわ健康プラン 2 1（第 2 次）」に係る自己評価別取組事業数

* 事業数は実件数

県機関			市町村			推進会議構成機関		
	事業数	割合		事業数	割合		事業数	割合
全体	370	100%	全体	907	100%	全体	208	100%
1. よくできた	270	73%	1. よくできた	570	63%	1. よくできた	167	80%
2. だいたいできた	88	24%	2. だいたいできた	305	34%	2. だいたいできた	35	17%
3. あまりできなかった	5	1%	3. あまりできなかった	20	2%	3. あまりできなかった	3	1%
4. ほとんどできなかった	7	2%	4. ほとんどできなかった	6	1%	4. ほとんどできなかった	3	0%
未回答	0	0%	未回答	6	1%	未回答	0	0%

「かながわ健康プラン 2 1（第 2 次）」に係る取組事業数の推移（調査対象全機関）

* 事業数は延件数

